



IEEE IEEE関西支部
IEEE Kansai Section (Geographic code R00983)

2023 年 IEEE 関西支部 総会資料

2023 年 3 月 2 日
IEEE 関西支部

総会資料目次

I.	2023 年関西支部役員・理事	1
II.	2023 年 KANSAI CHAPTER 役員	6
III.	2023 年関西支部 STUDENT BRANCH 役員	9
IV.	2022 年 活動報告 および 2023 年活動計画	11
V.	関西支部会員数	54
VI.	2022 年 会計報告	56
VII.	2023 年 予算	58
VIII.	受賞者	60
	参考情報	62



“2021 REGION 10 BEST MEMBERSHIP RETENTION LARGE SECTION AWARD”
Plaque

2023 年 IEEE 関西支部総会 プログラム

1. 日時:2023 年 3 月 2 日(木) 14 時 00 分~17 時 30 分
2. 場所: 住友ビルディング 大会議室
〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜 4 丁目 5-33
3. 総会スケジュール
 1. 役員・理事紹介
 2. 2022 年活動報告および 2023 年活動計画
 3. 2022 年会計報告および 2023 年予算案
 4. 2023 年 25 周年記念イベント企画案
<休憩>
 5. Chapter 役員紹介および活動紹介
<休憩>
 6. IEEE 関西支部 Young Professionals 賞授賞式
 7. IEEE 関西支部学生研究奨励賞授賞式
 8. IEEE Japan Council メダル授賞式(新 Senior Members)
 9. IEEE 関西支部新 Fellow 紹介
 10. 閉会の挨拶

I. 2023年関西支部役員・理事

1. 役員 (Section Officers)

Chair:	梶川 嘉延	(関西大学)
Vice Chair:	井上 哲也	(住友電気工業)
Secretary/ Treasurer:	向井 英之	(住友電気工業)

2. 理事 (Committee Chairs)

MDC Chair:	林 優一	(奈良先端科学技術大学院大学)
NC Chair:	村田 忠彦	(関西大学)
SAC Chair:	市川 昊平	(奈良先端科学技術大学院大学)
TPC Chair:	市川 治	(滋賀大学)
AC Chair:	肥後 芳樹	(大阪大学)
COC Chair:	太田 能	(神戸大学)

3. 理事 (Affinity Group Chairs)

LMAG Chair:	櫛木 好明	(元パナソニック)
WIE AG Chair:	熊木 武志	(立命館大学)
YP AG Chair:	二社谷 一樹	(大阪大学)

4. 理事 (Activities Chair)

EA Chair:	田邊 信二	(元三菱電機)
-----------	-------	---------

5. 理事 (Past Officer)

Past Chair:	畑 豊	(兵庫県立大学)
-------------	-----	----------

6. 理事 (Past Committee Chairs)

Past MDC Chair	佐藤 高史	(京都大学)
Past SAC Chair	福水 洋平	(立命館大学)
Past TPC Chair	上田 哲三	(パナソニック)
Past AC Chair	伊野 文彦	(大阪大学)
Past COC Chair	戸出 英樹	(大阪公立大学)

7. (Observer)

Past Vice Chair	松居 真一	(パナソニック)
Past Secretary/Treasurer	石田 達朗	(パナソニック)

8. Committee Officers

a. Membership Development Committee

Chair:	林 優一	(奈良先端科学技術大学院大学)
Secretary:	藤本 大介	(奈良先端科学技術大学院大学)
Member:	奥田 武夫	(オムロン)
	松居 真一	(パナソニック)
	澤田 宏	(日本電信電話)
	満仲 健	(シャープ)
	貝原 俊也	(神戸大学)
	太田 快人	(京都大学)
	椋木 康滋	(三菱電機)
	中島 重義	(大阪公立大学)
	木村 啓明	(ローム)
	尾原 郁夫	(京セラ)
	加藤 貴敏	(村田製作所)
	石野 祥太郎	(古野電気)
	八木 直美	(兵庫県立大学)

b. Nominations Committee

Chair:	村田 忠彦	(関西大学)
Member:	田畑 修	(京都先端科学大学)
	太田 淳	(奈良先端科学技術大学院大学)

c. Student Activities Committee

Chair:	市川 晃平	(奈良先端科学技術大学院大学)	
Member:	木村 達明	(大阪大学)	
	白井 僚	(京都大学)	
	和泉 慎太郎	(神戸大学)	
	加藤 恒夫	(同志社大学)	
	福水 洋平	(立命館大学)	
	礪川 悌次郎	(兵庫県立大学)	
	宝田 隼	(関西大学)	
	飯間 等	(京都工芸繊維大学)	
	北川 冬弥	(パナソニック)	
	(Student Representative)	豊岡 祥太	(関西大学)

d. Technical Program Committee

Chair:	市川 治	(滋賀大学)
Vice Chair:	石田 昌宏	(パナソニック)
Secretary:	石塚 諒一	(日立造船)

e. Awards Committee

Chair:	肥後 芳樹	(大阪大学)
Member:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
	和泉 慎太郎	(神戸大学)
	久保田 寛和	(大阪公立大学)
	黒江 康明	(京都工芸繊維大学)
	白石 善明	(神戸大学)
	新谷 道広	(京都工芸繊維大学)
	杉原 英治	(関西学院大学)
	杉原 浩平	(三菱電機)
	辻岡 哲夫	(大阪公立大学)
	野口 拓	(立命館大学)
	林 和則	(京都大学)
	東森 充	(大阪大学)
	水谷 圭一	(京都大学)
	元井 直樹	(神戸大学)
	山田 晃久	(モリタホールディングス)
	和田 友孝	(関西大学)

f. Chapter Operations Committee

Chair:	太田 能	(神戸大学)
Secretary:	藤本 章宏	(和歌山大学)
Member:	木村 睦	(龍谷大学)
	橋本 隆	(パナソニック)
	井上 馨	(同志社大学)
	小西 善彦	(広島工業大学)
	林 海	(大阪公立大学)
	新谷 道広	(京都工芸繊維大学)
	檜橋 祥一	(摂南大学)
	小西 毅	(大阪大学)
	西浦 敬信	(立命館大学)
	西村 良太	(徳島大学)
	大塚 敏之	(京都大学)
	北條 昌秀	(徳島大学)
	戸川 欣彦	(大阪公立大学)
	舟木 剛	(大阪大学)

g. Life Members Affinity Group

Chair:	櫛木 好明	(元 パナソニック)
Vice Chair:	千葉 徹	(元 シャープ)
Vice Chair:	有木 康雄	(神戸大学)
Secretary	大島 一能	(大阪工業大学)
Secretary:	平野 和夫	(元 住友電気工業)
Secretary:	杉本 繁	(元 パナソニック)

h. WIE (Women in Engineering) Affinity Group

Chair:	熊木 武志	(立命館大学)
Vice Chair:	松川 真美	(同志社大学)
Vice Chair:	岩元 美由紀	(京都大学)
Secretary:	エバンズ 直子	(TOA・大阪大学)
Treasurer:	蔭山 享佑	(近畿大学)

i. YP (Young Professionals) Affinity Group

Chair:	二社谷 一樹	(大阪大学)
Vice Chair:	豊岡 祥太	(関西大学)
Secretary/Treasurer:	井上 昂治	(京都大学)
Member:	青木 信雄	(広島市立大学)
	伊原 彰紀	(和歌山大学)
	岩居 健太	(立命館大学)
	落合 大輔	(京都産業大学)
	北川 冬弥	(パナソニックホールディングス)
	佐藤 丈博	(京都大学)
	塩見 準	(大阪大学)
	中島 優作	(総合研究大学院大学)

j. EA (Educational Activities)

Chair:	田邊 信二	(元三菱電機)
Vice Chair:	西浦 敬信	(立命館大学)

II. 2023 年 Kansai Chapter 役員

1. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

Chair:	木村 睦	(龍谷大学)
Vice Chair:	中原 健	(ローム)
Secretary:	松田 時宜	(近畿大学)
Treasurer:	奥 良彰	(ローム)

2. SSCS (Solid-State Circuits Society) Kansai Chapter

Chair:	橋本 隆	(パナソニック)
Vice Chair:	川口 博	(神戸大学)
Secretary:	兼本 大輔	(大阪大学)
Treasurer:	中田 洋平	(パナソニック)

3. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

Chair:	井上 馨	(同志社大学)
Vice Chair:	橋本 昌宜	(京都大学)
Secretary:	塩見 準	(大阪大学)
Treasurer:	南 政孝	(神戸市立工業高等専門学校)

4. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Joint Chapter

Chair:	小西 善彦	(広島工業大学)
Vice Chair:	塩見 英久	(大阪大学)
Vice Chair:	西 正博	(広島市立大学)
Secretary:	山本 綱之	(津山工業高等専門学校)
Treasurer:	西田 翼	(株式会社 村田製作所)

5. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

Chair:	林 海	(大阪公立大学)
Vice Chair:	和田 友孝	(関西大学)
Secretary:	東野 武史	(奈良先端科学技術大学院大学)
Treasurer:	熊本 和夫	(大阪工業大学)

6. CS (Computer Society) Kansai Chapter

Chair:	新谷 道広	(京都工芸繊維大学)
Vice Chair:	河村 岳	(パナソニック)
Vice Chair:	吉川 智哉	(三菱電機)
Secretary:	石川 和史	(パナソニック)
Treasurer:	張 任遠	(奈良先端科学技術大学院大学)

7. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

Chair:	檜橋 祥一	(摂南大学)
Vice Chair:	河合 正	(兵庫県立大学)
Secretary:	石川 峻樹	(オリエントマイクロウェーブ)
Secretary:	本田 慧	(三菱電機)
Treasurer:	野坂 秀之	(立命館大学)

8. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

Chair:	小西 毅	(大阪大学)
Vice Chair:	戸田 裕之	(同志社大学)
Secretary:	高橋 和	(大阪公立大学)
Treasurer:	竹村 亮太	(三菱電機)

9. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

Chair:	西浦 敬信	(立命館大学)
Vice Chair:	滝口 哲也	(神戸大学)
Secretary:	井本 桂右	(同志社大学)
Treasurer:	俵 直弘	(NTT)

10. CTS (Consumer Technology Society) West Japan Joint Chapter

Chair:	西村 良太	(徳島大学)
Vice Chair:	Thi Thi Zin	(宮崎大学)
Secretary:	後藤 富朗	(名古屋工業大学)
Treasurer:	長谷 智弘	(龍谷大学)

11. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

Chair:	大塚 敏之	(京都大学)
Vice Chair:	藤本 健治	(京都大学)
Secretary:	櫻間 一徳	(京都大学)
Treasurer:	佐藤 訓志	(大阪大学)

12. IES (Industrial Electronics Society) Japan Joint Chapter

Chair:	北條 昌秀	(徳島大学)
Vice Chair:	川畑 良尚	(立命館大学)
Secretary:	川上 太知	(大阪公立大学工業高等専門学校)
Treasurer:	石原 将貴	(岡山大学)

13. MAGS (Magnetics Society) Kansai/Shikoku Joint Chapter

Chair:	戸川 欣彦	(大阪公立大学)
Vice Chair:	岡本 好弘	(愛媛大学)
Secretary:	藤枝 俊	(大阪大学)
Treasurer:	宍戸 寛明	(大阪公立大学)

14. PSES (Product Safety Engineering Society) Kansai and Nagoya Joint Chapter

Chair:	舟木 剛	(大阪大学)
Vice Chair:	佐々木 宏	(スタンダードズ研究所)
Vice Chair:	濱口 慶一	(株式会社コスモス・コーポレーション)
Secretary:	竜田 純	(株式会社コスモス・コーポレーション)
Treasurer:	坂井 彰	(株式会社コスモス・コーポレーション)

III. 2023 年関西支部 Student Branch 役員

1. 大阪大学 (<http://www-ise2.ist.osaka-u.ac.jp/ieee/>)

Counselor:	尾上 孝雄	(大阪大学)
Mentor:	藤田 玄	(大阪電気通信大学)
Chair:	矢野 友理	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Vice Chair:	岡澤 一希	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Treasurer:	道添 竜平	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Secretary:	宮武 俊作	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻

2. 京都大学 (<http://ieee.kuee.kyoto-u.ac.jp/>)

Counselor:	白井 僚	(京都大学 情報学研究科)
Mentor:	近村 啓史	(株式会社フィックスターズ)
Chair:	羽原 丈博	情報学研究科
Vice Chair:	池田 聡成	情報学研究科
Treasurer:	小池 健文	情報学研究科
Secretary:	村瀬 秀太	情報学研究科

3. 立命館大学 (<https://sites.google.com/site/ieeeritsumeikansb/home>)

Counselor:	孟 林	(立命館大学 准教授)
Chair:	尾野 優雅	理工学研究科 電子システム専攻
Vice Chair:	石橋 龍人	理工学研究科 電子システム専攻
Treasurer:	林 駿介	理工学研究科 電子システム専攻
Secretary:	井上 舜介	理工学研究科 電子システム専攻

4. 奈良先端科学技術大学院大学 (<http://ieee-sb-naist.github.io/>)

Counselor:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
Mentor:	井上 美智子	(奈良先端科学技術大学院大学)
Chair:	Olufemi Abraham Abiodun	先端科学技術研究科
Vice Chair:	Thuwiba Qais Abdalla Ibrahim	先端科学技術研究科
Treasurer:	Yohanssen Pratama	先端科学技術研究科
Secretary:	Sergio De Leon Aguilar	先端科学技術研究科
Webmaster:	Kang Xingyuan	先端科学技術研究科

5. 兵庫県立大学 (<http://www.eng.u-hyogo.ac.jp/IEEEStudent/index.html>)

Counselor:	磯川 悌次郎	(兵庫県立大学 工学研究科 電子情報工学専攻)
Mentor:	柳川 由紀子	(オムロン株式会社)
Chair:	小林 壯哉	工学研究科 電子情報工学専攻
Vice Chair:	森 達哉	工学研究科 電子情報工学専攻
Treasurer:	佐々木 研太	工学研究科 電子情報工学専攻
Secretary:	佐々木 研太	工学研究科 電子情報工学専攻

6. 関西大学 (http://www2.kansai-u.ac.jp/ieee_sb/)

Counselor:	梶川 嘉延	(関西大学 教授)
Mentor:	辻川 剛範	(日本電気 情報・メディアプロセッシング研究所)
Chair:	豊岡 祥太	理工学研究科システム理工学専攻
Vice Chair:	廣田 涼	理工学研究科システム理工学専攻
Treasurer:	内田 颯太	理工学研究科システム理工学専攻
Secretary:	阪本 凱	理工学研究科システム理工学専攻

7. 同志社大学 (<https://ccilab.doshisha.ac.jp/ieee/>)

Counselor:	大崎 美穂	(同志社大学 教授)
Chair:	田儀 樹	大学院理工学研究科 電気電子工学専攻
Vice Chair:	丸山 弘貴	大学院理工学研究科 情報工学専攻
Treasurer:	大園 健史	大学院理工学研究科 電気電子工学専攻
Secretary:	高城 光汰	理工学部 情報システムデザイン学科

IV. 2022 年 活動報告 および 2023 年活動計画

1. 総括

【2022 年活動報告】

LMAG、WIE、YP の各 Affinity Group の活動では、3 年ぶりとなる「LMAG 現地講演会」、9 回目となる恒例イベント「WIE シンポジウム」を開催するとともに、東京および仙台 YP との連携による新イベント「IEEE TOWERS in Kansai」の開催や MAW2022、Japan SYWL +Industry Workshop、SBLTW への現地参加者派遣により、他支部との交流を深めた。

支部主催の各種イベントは新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、TPC 主催の技術講演会や MDC 主催の「マイルストーン講演会」等、一部イベントはオンラインで開催する一方、感染防止対策を徹底した上で、総会、支部理事会、EA イベント「英語で学ぶ先端技術」、「WIE シンポジウム」、YP イベント「博士課程のキャリアを語る会」等を集合とオンラインのハイブリッド開催、NC 新企画イベント「第1回 IEEE 関西支部 Fellow Club (創設記念)」講習会や YP-MDC-SB 交流企画「社会人と学生の交流会」等は集合開催のみとするなど、イベントの性格に合わせて開催形態を多様化して実施し、活動の全国規模化や学生参加者の拡大に努めた。このような多様な開催形態を実現するために、2021 年に関西支部備品として購入した Web 会議用のスピーカーマイク(含、拡張マイク3つ)および Web カメラを多くのイベントで活用した。

【2023 年活動計画】

2023 年も、新型コロナウイルス感染症の影響は不透明なままである。しかしながら、2022 年までに培ったノウハウ・知見を活用して、TPC 主催の技術講演会を始め各 Committee、Affinity Group 主催の既存イベントについては、「オンライン開催のみ」、感染防止対策を徹底した上で「集合とオンラインのハイブリッド開催」、あるいは「集合開催のみ」とするなど、各種イベントの性格に応じて多様かつ臨機応変な開催形態への取組を定着させるとともに、支部活動のより一層の活性化と会員増につながるような新規イベントの導入も検討したい。このような多様な開催形態を実現するために、2021 年に関西支部備品として購入した Web 会議用のスピーカーマイク(含、拡張マイク3つ)および Web カメラを引き続き活用し、イベントの活性化に努めたい。

また 2023 年は、関西支部設立 25 周年の節目にあたる。この節目をお祝いするとともに、25 年間にわたるご貢献者への感謝の気持ちを表し、今後の関西支部および地域活動のさらなる盛況を祈念するための周年記念イベントを企画・開催する予定である。

2. 総会

【2022 年活動報告】

2022 年 2 月 22 日(火)に大阪工業大学・梅田キャンパス・常翔ホールにおける対面および WebEX によるオンラインのハイブリッド形式で年次総会を開催した。各 Committee、Chapter、Affinity Group から、2021 年の活動実績、2022 年の活動計画を報告。関西支部より 2021 年決算、2022 年予算を報告し承認された。総会中、Young Professionals 賞、学生研究奨励賞授賞式、新シニア会員への関西支部メダル授与式、新 Fellow の紹介・講演会を実施

した。参加者は、対面 26 名、オンライン 45 名の計 71 名であった。



学生研究奨励賞受賞者



関西支部メダル授与式（新 Senior Members）

【2023 年活動計画】

2023 年は 3 月 2 日（木）14:00～17:30 の予定で、定例総会を実施する。

3. 理事会

【2022 年活動報告】

2022 年は 6 回の理事会を開催し、折々の支部運営について審議した。新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、7 月の第 4 回理事会を WebEX によるオンライン開催とした以外は、集合

およびオンラインのハイブリッド開催とした。理事会議論においては、特に支部および支部内組織 (Committee、AG 等) が主催・共催するイベントの活性化による会員増の取り組み、次期役員・理事会メンバー選定について注力した。時節柄、多くの議決をメール審議によっても実施した。また 2023 年の関西支部設立 25 周年記念イベントの実施に関して 2023/2024 年の執行部に引き継ぐべく、オフラインも含めて方向付けの議論を行った。

第 1 回理事会 1 月 19 日 (水)、関西大学・梅田キャンパス・701 会議室、および

WebEX によるオンライン開催 (参加 17 名)

2022 年活動・予算計画の確認、関西支部総会準備

第 2 回理事会 2 月 22 日 (火)、大阪工業大学・梅田キャンパス・常翔ホール、および

WebEX によるオンライン開催 (参加 18 名)

関西支部総会準備 (段取り、資料の最終確認)

第 3 回理事会 5 月 26 日 (木)、大阪工業大学・梅田キャンパス・会議室 301/302、および

WebEX によるオンライン開催 (参加 18 名)

第 1 回 JC 理事会報告

Executive Nomination Committee 設立、Chair 指名

2022 年 Young Professionals 賞、学生研究奨励賞の募集について

各種会議、イベントの準備・実施状況共有

第 4 回理事会 7 月 20 日 (水)、WebEX によるオンライン開催 (参加 16 名)

第 2 回 JC 理事会報告

Executive Nomination Committee 進捗、委員承認

各種会議、イベントの準備・実施状況共有

第 5 回理事会 9 月 21 日 (水)、大阪工業大学・梅田キャンパス・セミナー室 201、および

WebEX によるオンライン開催 (参加 18 名)

Executive Nomination Committee 進捗、次期 Section Chair 候補承認

2023/24 選挙立候補者について

各種会議、イベントの準備・実施状況共有

第 6 回理事会 12 月 19 日 (月)、大阪工業大学・梅田キャンパス・会議室 301/302、および

WebEX によるオンライン開催 (参加 26 名)

第 3 回 JC 理事会報告

2022 年会計報告 / 2023 年予算計画

2022 年各種表彰者 (YP 賞、学生研究奨励賞、新シニアメンバー)

各種会議、イベントの準備・実施状況共有

【2023 年活動計画】

2023 年は年間 5 回の理事会を計画する。これに加えて、関西支部設立 25 周年記念イベントの開催・運営について議論するため、1, 2 回程度の臨時理事会の開催も想定している。

4. 関西支部主催講演会

【2022 年活動報告】

Technical Program Committee (TPC)の企画により、年間 3 回の技術講演会を開催した。このうち 1 回は、LMAG との共催による見学会(新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し Web によるオンライン開催)を行った。詳細については TPC の活動報告に記載。

【2023 年活動計画】

2023 年は年間 5 回程度の講演会(見学会を含む)の開催を予定し、支部活性化を図る。

5. Region 10 Meeting

【2022 年活動報告】

2022 年 2 月 26 日(土)~27 日(日)にオンライン開催された Region 10 Meeting に、関西支部より畑 Chair、松居 Vice Chair が参加し、R10 の活動報告と活動計画などの情報入手と交換に努めた。

【2023 年活動計画】

日程: 2023 年 3 月 4 日(土), 5 日(日)

場所: Ho Chi Minh, Vietnam

関西支部より梶川 Chair と井上 Vice Chair が参加し、R10 の活動報告と活動計画等の情報入手と交換、支部メンバーへの共有に努める。

6. MAW / Japan SYWL Workshop / SBLTW

【2022 年活動報告】

2022 年 10 月 7・8 日に徳島大学で開催された、MAW2022、Japan SYWL Workshop および付帯イベントに、関西支部より AG メンバー 4 名、学生メンバー 1 名、計 5 名を派遣した。また 2022 年 11 月 18・19 日に沖縄・那覇で開催された、SBLTW (IEEE 学生支部リーダーシップトレーニングワークショップ)に AG メンバー 1 名、学生メンバー 1 名、計 2 名を派遣した。それぞれに他支部メンバーとの交流等を通じて、当該イベントを有意義に経験・活用された旨の報告をいただいた。

【2023 年活動計画】

2023 年も、継続して活動活性化を図るため、Student Branch/YP/WIE/LMAG について上位組織で開催される本イベント活動への参加を積極的に支援する。

7. 協賛会議等

【2022 年活動報告】

・第 9 回 電子デバイスフォーラム京都

~異次元に拡大する半導体/電子部品の成長シナリオを探る!!~

主催：一般社団法人日本電子デバイス産業協会(NEDIA)

日時：2022年10月24日(月) - 25日(火)

場所：京都リサーチパーク(KRP)

・11th IEEE CPMT Symposium Japan (ICSJ2022)

主催：IEEE EPS

日時：2022年11月9日(水) - 11日(金)

場所：京都大学百周年時計台記念館

・令和4年 電気関係学会関西連合大会

主催：電気学会 関西支部

電子情報通信学会 関西支部

映像情報メディア学会 関西支部

電気設備学会 関西支部

日時：2022年11月26日(土) - 27日(日)

場所：オンライン開催

8. 情報発信

【2022年活動報告】

関西支部 Web ページ

下記ホームページで、技術講演会や AG による活性化イベントの案内等を情報発信した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>

電子メールの利用

総会、技術講演会、協賛会議、活性化イベント、各賞応募等の案内を関西支部ホームページへの掲載とあわせてメーリングリストの活用により、広く公告し情報発信に力を入れた。

R10 Newsletter

LMAG を中心に R10 Newsletter への投稿を進めるとともに、“2022 R10 Newsletter 最終号(4th issue)”において、関西支部紹介記事 “Large Section – IEEE Kansai Section” が掲載された。

https://newsletter.ieeer10.org/home_fourthed2022/large-section-ieee-kansai-section/

【2023年活動計画】

関西支部 Web ページ

関西支部のホームページでは、引き続き各種情報を発信して、会員メリットの向上に努める。

Newsletter のタイムリーな発信に努める。

電子メールの利用

総会、技術講演会、協賛会議、活性化イベント、各賞応募等の案内を関西支部ホームページへの掲載とあわせてメーリングリストの活用により、広く告知し情報発信に力を入れる。

オンライン開催イベントは、関西支部会員に限らず、本全国の会員を対象に広く周知を図る。

R10 Newsletter

R10 Newsletter への投稿をさらに積極的に進め、関西支部活動について R10 内への英語による周知を図る。

【関西支部 Newsletter の発行】

No.41(2022 年 3 月 22 日発行): 総会の様子、YP 賞・学生研究奨励賞の受賞者紹介、新 Senior メンバー・新 Fellow の紹介、技術講演会等の開催情報を掲載。

<https://www.ieee-jp.org/section/kansai/news/no41.html>

No.42(2022 年 9 月 22 日発行): 2023/2024 年 関西支部役員および理事候補者の公示、YP 賞、学生研究奨励賞募集のお知らせ、技術講演会、WIE シンポジウム、博士課程のキャリアを語る会の開催情報を掲載。

<https://www.ieee-jp.org/section/kansai/news/>

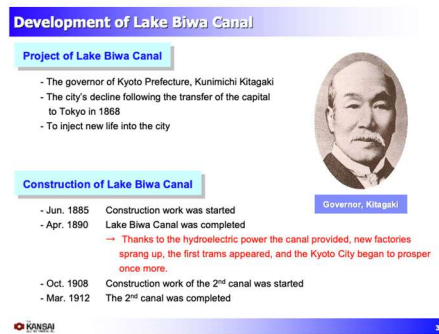
2022 年も 2 回 (No.43:2022 年 3 月、No.44:2022 年 9 月) の発行を予定している。

9. 各 Committee/Affinity Group からの報告

a. Membership Development Committee

【2022 年活動報告】

- ・ 2022 年は、第 1 回を 7 月 21 日、第 2 回を 12 月 13 日に、MDC&SAC&YP Joint Workshop を開催した。第1回目は新型コロナウイルス感染症の現状を鑑みオンラインによるウェブ開催としたが、第2回目は感染に十分注意した上で、大阪ガーデンパレスにて対面で実施した。MDC、SAC、YP に参加している各委員の組織等を通じて IEEE 活動の利点を広く周知し、新卒者の学生会員から正会員への移行をスムーズにするとともに、正会員からシニアへの移行を推進した。また、SAC や YP と連携し、大学院生を中心とした学生会員の増加に力を入れた。
- ・ 通常会員の会員数の減少を食い止めるため、Renew のし忘れを防ぐことを目的に、5 月と 10 月に Renew 案内メールを送信して更新を促した。また、シニアメンバーへの昇格申請がスムーズとなるよう申請のための支援を継続し、その結果 2022 年度のシニアメンバー昇格者が 13 名となった。
- ・ 2022 年 12 月 31 日時点での会員数は 2,166 名であり、2022 年度と同程度の水準であった。全体的な傾向として学生会員の減少が目立つが、これは国内研究会、国際会議の多くがオンラインまたはオンラインでの参加が可能な形で開催されているため、新たな IEEE 入会のメリットの訴求が難しくなっているためと思われる。
- ・ 企業会員数を獲得する目的で、IEEE Japan Council History Committee、IEEE 関西 Nomination Committee と連携し、1 月 25 日に、IEEE マイルストーン講演会を開催した。関西電力 橋本直哉様、シャープ 和泉真様を講師にお招きし、それぞれの企業におけるマイルストーン認定技術である「黒部川第四発電所・蹴上発電所」、「太陽電池の商業化および産業化・テレビ用 14inch TFT 液晶ディスプレイ」についてご講演いただいた。オンラインで開催し、日本全国より 59 名の聴講者が参加し盛況であった。
- ・ 10 月 9 日に開催された IEEE 関西 YP が主催する「博士課程のキャリアについて語る会」に協賛し、学生会員の IEEE への入会を勧める講演を行った。さらに、新たな試みとして、11 月 23 日に、IEEE 関西 YP、SAC と共同で合同イベントを開催し、MDC に所属するメンバーの企業（京セラ、シャープ、日本電信電話、パナソニック、古野電気、三菱電機）より、仕事内容や、仕事での活躍エピソードを学生に向けて発表することで、社会人と学生の相互理解を深めた。これらのイベントを通じて、IEEE パンフレットやノベルティグッズを配布し、IEEE メンバーへの勧誘とシニアメンバー昇格への案内を行った。



IEEE マイルストーン講演会 (1/25)

博士課程のキャリアについて語る会 (10/9)

【2023 年活動計画】

2023 年も継続して、会員増に向けた活動を行う。これまでと同様に MDC/SAC/YP と連携しながら、特に Senior member と学生を中心とする若手の新規会員の増加に向けた活動を行う。

- ・ MDC/SAC/YP Joint Workshop を年 2 回(5 月頃、11 月頃)開催し、Committee 間の情報交換、連携を通して会員数増に向けた活動を行う。
- ・ アップグレードの勧誘と申請サポートとを通して、シニアメンバーの一層の増加を目指す。IEEE Computer Society Kansai Chapter の取り組みを JC MD 会議等を通じて他 Committee、Chapter に展開し、昇格者増加の道筋を作る。
- ・ 学会や研究会における広報活動 (IEEE のポスターやパンフレットの配布等) により、IEEE への入会勧誘を行う。しかし、オンライン開催によりこれが困難である場合は、ポスター・パンフレットを MDC 役員の所属機関に配布することで広報活動を実施する。
- ・ 年 2 回の Renew 促進のメールを送信して Renew 忘れによる会員減を防止する。

b. Nominations Committee

【2022 年活動報告】

2022 年 3 月 1 日締め切りの 2022 年 Fellow Nomination に際し、関西支部から数名の Fellow 推薦を行なった。その結果、2 名の Fellow 昇格となった。

2022 年 11 月 10 日、関西大学梅田キャンパスにおいて、「IEEE 関西支部 Fellow Club 創設記念イベント」を実施した。15 名の参加であった。

【2023 年活動計画】

2023 年は、2023 年 3 月 1 日締め切りの 2021 年 Fellow Nomination に関して、関西支部内の現 Fellow に対し新 Fellow の推薦を依頼するとともに、現 Senior に対しても Nominee となることを勧める。また、「IEEE 関西支部 Fellow Club」の枠組みのもと、現 Fellow から積極的に推薦できる枠組みを構築する。更に、IEEE メンバー資格昇格のための勉強会・講演会を実施する。

c. Student Activities Committee

【2022 年活動報告】

SAC では、昨年に引き続き学生会員の増強、学生会員の活動支援等の活動を行った。

- (1) 既存 7 大学(大阪大学、京都大学、立命館大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学、同志社大学)の Student Branch (SB)を中心に、学生会員の増強、学生会員の活動支援、対外活動、SB 間の情報交換の促進、等の活動を行った。
- (2) MDC と SAC、YP と合同で Workshop をオンラインで開催(7 月, 12 月)し、連携して会員の増強、YP 会員、女性会員を含めた活動支援、等の活動を行った。
- (3) 各 Student Branch の Chair により Student Branch Chair Meeting をオンラインにて開催した(6 月 29 日)。前期の活動状況や今後の活動計画について議論を行うとともに、互いに交流を深めた。YP より塩見先生、北川様に来ていただき、YP との共同開催企画についても議論を行った。
- (4) SB 研究交流会を YP と共催で 11 月 23 日に大阪工業大学にて開催した。PowerPoint を用いた発表形式で行い、互いの研究内容について議論を行った。当日は 22 名の参加者のもと、6 件の発表が行われた。あわせて同日、同会場で YP および MDC と共催で社会人と学生の交流会を行った。
- (5) SB 全体のイベントとして、LMAG および YP と共催で立命館大学 English Presentation Competition を 10 月 29 日にハイブリッド形式(オンライン+対面)にて開催した。当日は 21 件(オンサイト 12 名+オンライン 9 名)の発表が行われ、優秀な 5 件に表彰した。
- (6) SB と LMAG との共同企画として計画しているブレインストーミング大会は、今年は兵庫県立大学が主催であったが、最少催行人数に至らず開催できなかった。参加人数の不足が 2 年間続いているので、来年度に向けて、企画の刷新や広報の仕方を工夫することが必要と考える。
- (7) AC と連携して IEEE 関西支部学生研究奨励賞を企画し、審査を行った。
- (8) 12 月 26 日に京都大学の主催で、年末交流会(引継ぎ会)を実施し、各 SB の活動状況の報告および次年度の活動計画について議論した。

【2023 年活動計画】

(1) Student Branch(SB)の設立

昨年に引き続き、学生会員の勧誘を進め、SB の設立に向け努力を継続する。既設の大阪大学、立命館大学、京都大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学、同志社大学各 Branch からの支援で、その他の大学、高専を対象に新 SB の設立を目指す。

(2) 学生会員活動の活発化

学生を対象とした講演会、見学会、IEEE 活動説明会を兼ねたイベントを企画し、学生会員の一層の増加を図る。既設の 7 大学 SB の協力により、SB が設置されていない大学に対しても、学生会員への積極的なサービス提供ならびに会員増強のプロモーションを図る。関西支部の 7 大学 SB を中心に、交流会を引き続き開催し、SB 間の交流を深める。さらに、SB Chair ミーティングを開催し、活動の活発化を促すとともに、SB 間の協力体制を強化することを目指す。また、

LMAG、YP、WIE の各 AG と協力してさまざまなイベントを実施する。さらに、各企画の学生会員増への貢献度を精査する必要がある。

(3) 表彰および研究奨励

2004 年から開始した IEEE 関西支部学生研究奨励賞を (AC と共同により) 継続して企画し、優れた英文論文を発表した学生を表彰し、学生会員の研究を奨励する。また、受賞者が受賞内容について講演する機会を設けて、更なる学生会員の活動の活性化を目指す。

(4) 他支部の学生活動との連携

国内に設立されている他の 8 支部の学生活動との情報交換、連携により関西支部における学生会員活動のより一層の深化を図る。

d. Technical Program Committee

【2022 年活動報告】

2022 年は、以下の表に示す計 3 回の技術講演会を実施した。

	開催日	場 所	講 演 者	参加者数 (IEEE 会員)	共催・協賛組織名
第 115 回	2022 年 1 月 13 日	テーマ: OFF THE GRID - 超小集電の拓く未来			
		WebEX によるオン ライン形式	中川聰氏 (トライポッド・デザイン株式 会社 CEO、名古屋大学医 学部 客員教授)	39 (30)	—
第 116 回	2022 年 5 月 19 日	テーマ: リアルスケール社会シミュレーションを実現する研究基盤			
		WebEX によるオン ライン形式	村田忠彦教授 (関西大学総合情報学部・ 大学院総合情報学研究科)	40 (28)	—
第 117 回	2022 年 6 月 30 日	テーマ: 富岳オンライン見学会			
		Zoom に よるオンラ イン形式	理化学研究所 計算科学研究推進室	37 (28)	IEEE 関西支部 LMAG (第 19 回現地講演 会)

新型コロナ対策継続のため、昨年に引き続き、講演会は全てオンライン形式で開催した。各講演会では、関西支部ホームページによる告知に加え、毎回、IEEE Japan Chapter を通じたメール案内により、他支部からもご参加いただき、アクティビティを高めた。

第 115 回講演会では、中川氏から、土壌等から電気を集める「超小集電」技術についてご講演頂き、実験室からの生中継を行うという新たな講演スタイルで大変好評であった。第 116 回講演会では村田教授より、仮想世帯個人情報である「合成人口データ」の有用性に関してご講演を頂いた。第 117 回講演会は、LMAG 連携によりスーパーコンピュータ富岳のオンライン見学会に合わせて、理化学研究所スタッフからその特徴や応用についてご説明頂いた。各講演会とも活発な質疑応答があり、参加者の知見・視野の拡大につながった。加えて、京都工芸繊維大学／

Symetrix 国際シンポジウム、高周波・アナログ半導体ビジネス研究会 (HAB研) セミナーの IEEE 協賛支援にも取り組み、IEEE 会員の知見・視野拡大に貢献できた。

【2023 年活動計画】

2023 年も引き続き、技術講演会の開催を主たる活動とする。オンラインあるいは対面併用のハイブリッド形式で、年 5 回程度の講演会を企画・開催することを目指す。加えて、IEEE 会員の知見・視野拡大につながるセミナー等の IEEE 協賛支援も進める予定である。

上記の活動においては、特定の Chapter に属さないような横断的分野、あるいはグローバル化に対応した市場・技術の方向性に関する内容の講演会を、積極的に企画・開催する。

e. Awards Committee

【2022 年活動報告】

昨年に引き続き、学生会員ならびに若手会員を対象として、「IEEE 関西支部 Young Professionals 賞」の募集を行った。本年度は、6 月に募集を開始し、10 月 7 日に応募を締め切った。その後、応募者の支援資料を 10 月 28 日までに受理し、当委員会による選定の後、12 月 19 日の支部理事会において「学生会員」部門および「大学や研究所の若手会員」部門でそれぞれ 1 名ずつの受賞者を決定した。

また、「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」の審査を、これまでと同様に継続して SAC と合同で審査委員会を設立して行った。Young Professionals 賞と同様に、6 月に募集を開始し、10 月 7 日を応募期限として応募者を募った。当委員会と SAC による選定の後、12 月 19 日の支部理事会において 9 名の受賞者を決定した。

【2023 年活動計画】

2023 年は、従来からの厳正な選考過程の実践を継続するとともに、これまで以上に応募者の増加に努める。「IEEE 関西支部 Young Professionals 賞」ならびに「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」を、それぞれ若手会員と学生会員の増強施策として位置づけ、関西支部が関与する種々の研究集会ならびにメーリングリストにおいて、賞の存在をより積極的に周知する。YP 賞に関しては、SAC とも協調し、Student Branch での活動等 IEEE への貢献が顕著な学生会員に加え、企業の若手会員に同賞への応募を積極的に呼びかける。

f. Chapter Operations Committee

【2022 年活動報告】

現存 Chapter の活動支援を行っている。具体的には、Japan Council Chapter Operation Committee と連携して進めている本部へのオンライン書類提出、Chapter 支援費、国際会議実施での MOU 締結手続き、ソサイエティ別 Section 所属会員数の提供、petition 作成支援等である。2022 年度は、関西支部内の各 Chapter 活動の支援策の一環として、国際会議の共催・協賛、Chapter 支援費、Chapter 予算の補てんのそれぞれに関する処理に関してフローチャートの形式で手順を可視化したスライドを作成し、配布することで上記手続き業務のスムーズ化を図った。JC COC の会合でも活動の一環として同資

料を紹介し、JC 全体への支援につなげた。また、計 2 回の JC COC 参加を通じて関連最新情報の把握に努めた。重要議題の一つである Chapter 支援費の Section 配下への移行について、検討が進んでおり、関西支部としても注視して対応していくことを確認した。

【2023 年活動計画】

2023 年は、引き続き関西支部内の各 Chapter 活動の活性化に努める。JC COC と連携して、各 Chapter との情報共有を綿密に行う。特に、前年度に実施した支援策である各種手続きの可視化について最新の情報を確認し、適宜更新した上で配布を行う。上記オンライン申請システムの広報・サポートを引き続き行うとともに、継続検討中の Chapter 支援費の Section 配下への移行など、Japan Council の運用制度の改訂に関する動向を把握し、迅速なフィードバックに努める。また、各 Chapter に対し、それぞれのホームページの積極更新を促進する。

g. Life Members Affinity Group

【2022 年活動報告】

活動 10 年目として LMAG 活動をいっそう活性化させるべく、COVID-19 の感染拡大状況を見ながら徐々に対面形態の活動を再開した。とくに LMAG 関西設立 10 周年記念イベントは、JC や LMAG 東京からの来賓を交えて、ハイブリッド形態で実施できた。役員会、新 LM 歓迎懇親会、現地講演会・見学会は主にオンライン形態で開催した。

役員会は 2 回開催した。7/29（金）に、今年度初の役員会を開催し次期体制案について議論した。12/21（水）に、第 2 回オンライン役員会を開催し、2022 年の活動振り返りと 2023 年の活動計画につき、新旧役員間で審議した。

新 LM 歓迎懇親会は 3/11（金）にオンライン開催し、新しく LM になった方々との親交を深めた。



講演会としては、2/25（金）にサイバーセキュリティをテーマとして技術懇話会をオンラインで開催した。オンラインの利点が活き、札幌、仙台、東京、名古屋の各支部からの参加者もあり、31 名参加と盛況であった。

6/30（木）には現地講演会として、スーパーコンピュータ富岳の遠隔見学会をオンラインで開催し、他地区 LMAG からの参加もあった。12/16（金）には、LMAG 名古屋との共催で、岐阜県の核融合科学研究所のまさしく現地講演会・見学会を開催した。



核融合科学研究所にて

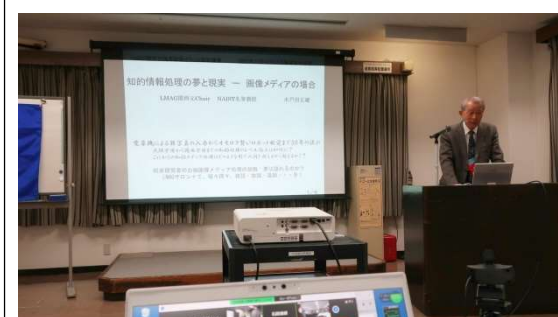
LMAG 関西設立 10 周年記念イベントを、11/12(土)に中央電気倶楽部にて JC や LMAG 東京の来賓の方々を招いて開催した。前半の 1 部では、福田 Past President からは、遠く深夜のブラジルからオンラインで祝辞メッセージをいただいた。また、JC LMC 高野先生、LMAG 東京 Chair 今井先生、関西支部 Chair 畑先生から祝辞をいただいた。初代 LMAG 関西 Chair 小山先生、JC History Committee Chair 白川先生、LMAG 関西 Past Chair 木戸出先生に記念講演をしていただいた。2 部の懇親会では、COVID-19 対策をしながら、種々の歓談の場を持った。



JC 高野先生の祝辞



白川先生の講演



木戸出先生の講演



講演会後の集合写真



9/3（土）の関西支部主催第2回 EA（Educational Activities）イベントに YP と共に共催で参加した。開催テーマは若手研究者や高校生に対する英語と先端技術の啓蒙で、77名の参加者があった。

他組織との連携として、SB との連携では、10/29（土）にハイブリッド形態で開催された今年度分の SB 英語プレゼンテーション大会を支援し、この大会の優秀賞の一つとして設けている「LMAG Kansai Award」（表彰状及び副賞賞金）を該当者2名に授与した。同大会には LMAG 関西から2名が、審査員および聴講者として参加した。WIE との連携では、10/8（土）に開催された WIE シンポジウムに、LMAG 関西も共催した。

関西地域の外では、2/26（土）と6/19（日）、10/16（日）にオンライン開催された R10 LMAG meet に LMAG 関西 Chair が参加した。



10/8（土）に徳島で開催された MAW（Metro Area Workshop）に LMAG 関西 Chair が対面参加した。また、翌日午前の MAW 付帯イベントである JAPAN SYWL + Industry Workshop 2022 in 徳島 は、関西をはじめ国内各支部の全 LMAG が共催に加わっており、これにも参加した。

LMAG Kansai Newsletter については、英語が公用語の学会として LMAG 関西の活動をアジア（R10）や世界に情報発信していくため、2018年から英語版にて発行を続けており、今年も12月に発行した。

LMAG 関西の Web ページについては英語ページの掲載内容を更新し充実させた。

以上のように、2022年は、総じて SYW や他地区と LMAG との連携が深まった年であ

った。

【2023 年活動計画】

新役員体制の下、LMAG メンバーの深い専門知識、豊富な経験に基づく分野にまたがる発想力など「多様性を生かす」をスローガンに、従来同様に活発な活動を継続していきたい。関西支部 TPC、WIE などと連携して数回の講演会（現地講演会も含む）も計画する。LMAG 技術懇話会の活動を発展させていくことも大きな目標である。オンライン形態を活用して他支部 LMAG との地域の制約を超えた連携を図りつつ、広い地域の参加者を募るとともに、より広範なテーマに取り組む活動を目指したい。SB や YP、WIE、他支部 LMAG との連携も積極的に進める。具体的には、連携先の諸活動への LMAG メンバーの豊かな経験を活かした参加やその共同開催、逆に LMAG 活動への連携先からの参加など、幅広い視点から双方向の交流と連携を深める。

これらの活動の計画や成果を「LMAG Kansai Newsletter」にて広報し、広く参加の呼び掛けと活動報告をする。

h. WIE Affinity Group

【2022 年活動報告】

(1) Kansai WIE シンポジウム

2022 年もひきつづき、新型コロナウイルスの影響が予想されたため、毎年秋開催の WIE シンポジウムについても、開催方法を検討した結果、どのような状況でも開催できるよう、オンラインと現地開催のハイブリッド方式での開催をきめ、2022 年 10 月 8 日(土)にオンラインとキャンパスプラザ京都で「IEEE Kansai WIE シンポジウム 2022 - Enjoy Science, Technology and Your Life!」を開催した。IEEE Kansai Section Young Professionals Affinity Group、IEEE Kansai Section Educational Activities、IEEE Kansai Section Life Member Affinity Group、IEEE Student Branch at Osaka University、IEEE Student Branch at University of Hyogo、IEEE Student Branch at Ritsumeikan University、IEEE Student Branch at Kyoto University、IEEE Student Branch at Kansai University、IEEE Student Branch at Doshisha University、IEEE Student Branch at Nara Institute of Science and Technology、IEICE Kansai Section.に共催いただき、特に広報に関して協力し準備を行った。

シンポジウム前半では、3 名の女性技術者・研究者による以下の講演が行われた。

-「CG、デザイン、質感、医療、美術、いろいろつながる情報学」

国立情報学研究所 - 佐藤いまり 氏

-「ミュージカルオタクから海外大学の研究員になるまで」

Riga Stradins University, University of Latvia - 竹本あゆみ 氏

-「音響学からスタートしたパナソニックでの働き方」

パナソニックホールディングス株式会社 - 田中光波 氏

シンポジウムの後半は、現地参加の方々とオンライン参加の方々に分けて、グループトークを実施した。テーマは「科学とテクノロジーと人生を楽しむためのヒント」。オンライン参加の方々は Zoom のブレイクアウトルームを活用して少人数のグループごとに意見を交換した。

シンポジウムへの参加者は 54 名であった。昨年同様、ハイブリッド開催としたこと、関西の主な大学の男女参画推進室への案内を行い、参加者数は昨年と変わらずだったが、女性の参加者が増えた。本シンポジウムは WIE AG の年間活動の軸となるイベントとして、開催形態は問わずに、「関西の」女性技術者・研究者、理系の女子大学院生・学部生、そして理系進路選択を考える女子高校生のエンパワメントを目的として継続していく予定である。



WIE シンポジウム 2022 参加者集合

(2) 役員会

1) 2022 年 03 月 24 日 2022 年度第 1 回委員会

オンライン開催、

- ・ 2022 年役員を紹介、役割確認
- ・ 2022 年度シンポジウムの素案検討

2) 2022 年 05 月 31 日 2022 年度第 2 回委員会

オンライン開催・現地（大阪工業大学梅田キャンパス）ハイブリッド開催

- ・ 2022 年度シンポジウム の内容検討

3) 2022 年 09 月 07 日 2022 年度第 3 回委員会

バーコンラボ京都駅

- ・ 2022 年度シンポジウム準備
- ・ シンポジウムポスター送付作業
- ・ Fund 状況報告

4) 2022 年 10 月 8 日 2022 年度第 4 回委員会

キャンパスプラザ京都

- ・ 2022 年度シンポジウム直前打ち合わせ

(3) 協賛およびその他の活動

- ・ 2022 年 9 月 3 日 関西支部 EA 英語で学ぶ先端技術
- ・ 2022 年 10 月 8 日 IEEE JAPAN SYWL+INDUTRY WORKSHOP IN TOKUSHIMA 2022
- ・ 2022 年 10 月 9 日 IEEE YP TOWERS in Kansai
- ・ 2022 年 10 月 9 日 IEEE YP 博士課程のキャリアについて語る会
- ・ 2022 年 11 月 12 日 Women in Engineering 2022
- ・ 同志社大学 世界に羽ばたく「科学するガールズ」養成プログラム

【2023 年活動計画】

2023 年は、WIE AG 設立 10 周年となる。下記施策により、10 周年にむけて活動のさらなる活発化を図る。

- ・ Kansai WIE の活動を紹介するパンフレットを作成し、活動の広報を強化する。
- ・ WIE 活動に賛同するメンバーを積極的に募り、運営体制を強化する。
- ・ 女性研究者・技術者を応援するためのシンポジウムを開催する。理系の女子大学院生や学部生の近い未来のキャリア支援、さらに理系進路を考える高校生への進路選択の一助となるような内容も含めることで、参加者層を拡張する。
- ・ Student Branch, YP, LMAG, JC WIE, 他学会の女性支援関連活動などと連携しながら、関西での WIE 活動を推進する。

i. Young Professionals Affinity Group

【2022 年活動報告】

2021 年から継続している YP 活動の「見える化」を実現するため、関西 YP Web ページのリニューアル、および Web ページや SNS プラットフォームによる情報配信の体制を確立した。

- ・ 関西 YP Web: <https://www.ieee-jp.org/section/kansai/organization/YP/>
- ・ Facebook ページ: <https://www.facebook.com/groups/yp.kansai.ieee>

WIE、SAC、MDC、SB、Society と連携したイベントを実施し、若手研究者・技術者の交流、キャリアアップを促進するためのイベントを企画、共催することができた。

異分野の学生の研究交流の場を提供する「IEEE TOWERS in Kansai」、学生に対して博士課程への進学への動機付けを行う「第 4 回 博士課程のキャリアについて語る会」、IEEE 社会人メンバーと SB メンバーの交流の場を提供する「社会人と学生の交流会」と、関西 YP では過去最多である 3 件の主催イベントを開催した。以下、主なイベントの一覧。

- 1) (共催) IEEE Kansai Section 第 2 回 EA イベント (9/3)
- 2) (後援) IEEE SYWL + Industry Workshop 2022 (10/8)

- 3) (共催) IEEE Kansai WIE シンポジウム 2022 (10/8)
- 4) (主催) **IEEE TOWERS in Kansai (10/9)**
- 5) (主催) **第 4 回 博士課程のキャリアについて語る会 (10/9)**
- 6) (共催) 第 19 回英語プレゼンテーション大会 (10/29)
- 7) (共催) IEEE 関西支部 Student Branch 研究交流会 (11/23)
- 8) (主催) **社会人と学生の交流会 (11/23)**
- 9) (共催) The 19th IEEE Transdisciplinary-Oriented Workshop for Emerging Researchers (TOWERS) (11/26)
- 10) Kansai YP AG Board Meeting (毎月開催)

【2022 年主催イベント報告】

関西支部 YP 主催イベント「IEEE TOWERS in Kansai」

本ワークショップは「若手研究者どうしの交流を通じ、多様な考え方に触れ幅広い分野に仲間を持つ」ことを目的とし、Tokyo Section で開催されている IEEE Transdisciplinary-Oriented Workshop for Emerging Researchers (TOWERS) のリレー企画として本年初めて実施した。若手研究者を発表者として、既発表内容可、文理・専攻を問わず発表を行っていただいた。

- 日時: 2022 年 10 月 9 日 (日)
- 場所: 大阪工業大学 梅田キャンパス セミナー室 203・204
- 主催: IEEE Kansai Section Young Professionals Affinity Group
- 共催: 大阪工業大学, 19th IEEE TOWERS Executive Committee, IEEE Sendai YP AG
- 協賛: IEEE Kansai WIE AG / LMAG, IEEE Young Professionals
- 協力: IEEE Sapporo / Tokyo YP AGs,
IEEE SB at Kansai Univ. / Osaka Univ. / Ritsumeikan Univ. / Tohoku Univ. / Univ. of Hyogo,
IEEE CASS / CS Kansai Chapters
- 参加者: 発表者 13 名 (14 件), 聴講者 16 名
- 謝辞: IEEE Young Professionals より Local Activities funding (750 米ドル)の支援を受けた。

イベント内容 :

- 10:00-10:30 開会式
- 10:30-12:30 ポスターセッション (Session A, Session B)

計 13 件の一般ポスターを 2 セッションに分けて発表していただき、1 件の招待ポスターは全セッション通して発表していただいた。

- 13:30-17:30 (連催：第4回 博士課程のキャリアについて語る会)
17:30-18:00 表彰・閉会式
18:00-19:30 交流会（「第4回 博士課程のキャリアについて語る会」と共催）
-

関西支部 YP 主催イベント「第4回 博士課程のキャリアについて語る会」

本イベントは、講演やグループディスカッションを通じて、学生をはじめとする博士後期課程に興味のある方々がキャリアについて考える場を提供することを目的とする。現役の博士後期課程の学生、および博士学位取得後に大学や企業に就職された方々をお招きし、博士後期課程のキャリアに対して感じていた期待や不安、実際に進学して得たもの、在学中に最大の利益を得るための行動等についてご講演いただいた。本年度はオンサイトとオンラインのハイブリッド開催で実施した。

- 日時: 2022年10月9日(日)
場所: 大阪工業大学 梅田キャンパス セミナー室 203・204
主催: IEEE Kansai Section Young Professionals Affinity Group
共催: 大阪工業大学, IEEE 関西 MDC / WIE AG / LMAG,
IEEE CASS / CS Kansai Chapters, IEEE Sendai / Sapporo / Tokyo YP AGs,
IEEE HSF (Hiroshima, Shikoku and Fukuoka) Joint Sections YP AG,
IEEE 関西大学/東北大学/兵庫県立大 SBs
スポンサー: IEEE Region 10, IEEE Region 10 Young Professionals
参加者(登録者数): 35名
謝辞: IEEE R10 Young Professionals より Student-YP Joint Activities Fund (400米ドル)の支援を受けた。

イベント内容:

- 13:30-13:40 開会の挨拶
13:40-14:10 山口 隼平(大阪大学 D1) 「博士後期課程への進学について」
14:10-14:40 白井 僚(京都大学 助教) 「博士後期課程修了後、アカデミックポジションに就職するキャリアについて」
15:10-15:40 浦井 一(大同大学 教授、元日立製作所) 「博士後期課程修了後、企業やアカデミックポジションに就職するキャリアについて」
15:40-15:50 新谷 道広 (IEEE 関西 MDC Secretary) 「IEEE 入会のススメ」
15:50-16:00 塩見 準 (IEEE 関西 YP AG Chair) 「IEEE YP 入会のススメ」
16:00-17:30 グループディスカッション
18:00-19:30 交流会（「IEEE TOWERS in Kansai」と共催）
-

関西支部 YP 主催イベント「社会人と学生の交流会」

IEEE Kansai Section Membership Development Committee (MDC) の社会人メンバー（京セラ、シャープ、日本電信電話、パナソニック、古野電気、三菱電機）に 仕事内容や、仕事での活躍エピソードを学生に向けて発表いただくことで、社会人と学生の相互理解を深めた。

日時: 2022 年 11 月 23 日 (水)

場所: 大阪工業大学 梅田キャンパス 2 階セミナー室 204

主催: IEEE Kansai Section Young Professionals Affinity Group

共催: IEEE Kansai MDC,

IEEE 関西支部 SB (大阪大学、関西大学、京都大学、同志社大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、立命館大学),

大阪工業大学

参加者: 21 名

イベント内容 :

- | | |
|-------------|--|
| 14:30-14:40 | 開会の挨拶 (塩見 準 YP AG Chair) |
| 14:40-15:00 | 「京セラの研究開発のご紹介」 尾原 郁夫 (京セラ株式会社) |
| 15:00-15:20 | 「シャープ及び私の仕事紹介」 満仲 健 (シャープセミコンダクターイノベーション株式会社) |
| 15:20-15:40 | 「NTT 研究所での研究活動」 澤田 宏 (日本電信電話 (株)) |
| 15:40-15:50 | 休憩 |
| 15:50-16:10 | 「パナソニックの事業に向けた研究開発 ～過去の個人的経験から～」 松居 真一 (パナソニック ホールディングス株式会社) |
| 16:10-16:30 | 「チャレンジングな働き方で成果を生み出そう」 石野 祥太郎 (古野電気株式会社) |
| 16:30-16:50 | 「IEEE 関西 「社会人と学生の交流会」 企業経験のご紹介」 椋木 康滋 (三菱電機株式会社) |
| 16:50-17:00 | 閉会の挨拶 (塩見 準 YP AG Chair) |
| 17:00-17:00 | 「IEEE YP 入会のススメ」 塩見 準 (YP AG Chair) |
| 18:00-19:30 | 交流会 |

【2023 年活動計画】

引き続き支部内で連携イベントを実施し、若手研究者・技術者の交流、キャリアアップを促進する。特に、関西支部下の SB と共同イベントを企画することで、SB との連携を強固にし、YP 会員獲得を目指す。

加えて支部外との連携も強めるために「博士課程のキャリアについて語る会」を JC YP と連携して全国イベントに昇華する。また 2021 年にオンラインで開催した「Overleaf 講習会」の再開要望が大きいと、こちらについても JC YP と連携して全国イベントに昇華する。全国各地に関西 YP メンバーを派遣してネットワーキングやキャリアアップ活動を行うことで、関西 YP のプレゼンスを向上させ、新規 YP 会員の獲得および他支部から転入した YP 会員の継続的な YP 活動支援を目指す。

j. Educational Activities

【2022 年活動報告】

一昨年 2020 年後半に JC より各支部から担当を出すよう依頼があり、田邊 Past TPC Chair が新たに関西支部における EA Chair に選出され活動を開始した。

EA(Educational Activities)は、IEEE 本部のある米国では以前から活発に活動をしており、IEEE 会員、会員以外の IEEE 技術に関心のある一般、高校生などに向け、関連技術教材の作成、無料の技術講演会、ワークショップなどを開催する教育的啓蒙活動を行っている。米国で作成した教材は、非常によく出来たものであるが、使用言語が英語であり、自動翻訳では十分に意味が取れない難点があるため日本語化はされていない。

そのため、Resion 10 の中でもインドなども含め、ローカルの言語での EA 活動が呼びかけられており、昨年 2021 年より、福田 Past IEEE President の強い働き掛けもあり、JC 取りまとめで活動を興した。

とはいえ IEEE の特徴は、最先端の技術を英語で学べるところにあり、「英語で学ぶ先端技術」を大テーマとして、高校生、大学生、若手エンジニアが、直に英語で講演や文献に触れ、英語で技術を理解し、技術ディスカッションが出来ることをサポートしていく。

以下、昨年 2022 年 9 月 3 日(土)にハイブリッド形式(現地：大阪工大梅田キャンパス)で開催した「第 2 回 IEEE 関西支部 EA イベント」の内容を紹介する。

- 13:00-13:15 あいさつ、概要説明など
- 第 1 部： 13:15-14:15 講演：
「先端技術を活用する企業の経営幹部が何をハーバードビジネススクールで学ぶのか」
“What does the C-level executive in the business of utilizing advanced technologies learn from Harvard Business School Executive Education program”

講演者：宗像 佐堯さん

ハーバード・ビジネス・スクール クライアント・ディベロップメント・ディレクター
(日本・オーストラリア)



- デジタル革命などの先端技術が様々な業界にディスラプションをもたらしているなか、先端技術をビジネスチャンスに結び付ける際の戦略や注意点
- Advanced technologies such as digital revolution continues to disrupt every industry. How should we adopt change and evolve strategies that turn these technologies into opportunities?
-
- 第2部: 14:30-16:40 ディスカッション:量子コンピュータとは?
- 講演動画を見て国際学会聴講の疑似体験をし、量子コンピュータについて英語でディスカッションを行った。ディスカッションの内容は『量子コンピュータでこんなことをやってみたい!』
- 実行委員による言語的な補助を行い、英語が得意でない方も参加できるようにした。また、事前に量子コンピュータに関する用語集、基本的な原理解説を送り、文系の人にも参加しやすいようにした。



ビデオ教材(A Beginner's Guide to Quantum Computing: Dr. Talia Gershon, IBM) を使用

- 16:40-17:00 質疑、ラップアップ

【2023年活動計画】

本年度も8月に EA イベント開催を予定している。大テーマとして「英語で学ぶ先端技術」は引き続き維持し、高校生、大学生、若手店ジニアが、英語で先端技術を学ぶ機会を作り、その能力向上をサポートしていく。

関西支部 EA として独自に教材を作成することはマンパワーもあり行わない。高校生などにとっても、技術を英語で学ぶことは有益であり、本部の英語教材で内容的によく出来ているものは、積極的に紹介していく。

EA 単独ではマンパワー不足であり、TPC, WIE, LMAG, YP などの協力をお願いし、JC、他支部とも協力し、活動を盛り上げていく。会員各位のご協力をおお願いすると同時に、活動に対する提案をお待ちしている。8月19日(土)にハイブリッドにて大阪工大梅田キャンパスにて EA イベント開催を予定している。英語で学ぶ先端技術をテーマにイベントを企画中である。講演者の内諾を取得済である。国内学会との差別化として IEEE らしく英語の強化をしたい。関西支部の外国籍会員の方なども、巻き込んでいきたいと考えている。

2023-2024 年期の EA Chair も田邊 Chair が続投予定である。また、2023年1月1日より立命館大学 西浦先生が EA Kansai Vice Chair に就任されることとなった。IEEE 本部では EA

は重要視されているが、日本では始まったばかりで認知度が低い。また、組織として支部 EA Chair、Vice Chair の他に人員を有していないので、然るべき経験のある人や支部内での協力依頼・調整が利く方のご協力なしにイベント企画はままならない。経験豊富なベテランでなくても遂行できる、つまり、より多くの方に役員・要職に就いていただけるような枠組準備も支部として行う予定である。

<今年度 EA イベント講演予定>

タイトル: Essential Elements of Effective Technical Communications: Structures, Stories, and Delivery

講演者: James Cusick, PMP Independent IT Consultant & Researcher, IEEE Computer Society Member Board Trustee, Henry George School of Social Science

講演概要: This talk will condense 40 years of experience in writing about and presenting technical projects and research activities into a set of practical and useful approaches to enhance authorship and communication. Focusing first on audience definition and topic purpose and then moving to effective story telling this presentation will help attendees improve their ability to express ideas and elicit support.

10. Chapter 活動

a. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

【2022 年活動報告】

2022 年も昨年に引き続き、コロナの影響で、多くのイベントがオンラインでの開催となった。(IMFEDK は Hybrid 開催) しかしながら、オンラインをうまく活用することによって、以下の様なイベントを開催でき、活発な活動ができた。

- ・ 3 年目となった電子デバイス関連の企業活性化のためのラウンドテーブルを 4/19 に開催した。今回は EDS の企業メンバー 3 名にこれまでの研究成果、成功例・失敗談などを語ってもらい、これからの半導体業界について意見交換をおこなった。12 名のメンバーが参加して、従来の講演会・発表会とは一味違うディスカッションが行えた。
- ・ 5/16 に DL/技術講演会を実施し、京都先端技術大学院の田畑先生から「Top-down meets bottom-up: Way to explore the plentiful room at the bottom」のタイトルで DL 講演を頂き、また東京大学の高木先生から「Physical reservoir computing using Ferroelectric Devices」のタイトルで講演して頂いた。これらの講演は教育の一環として学生も多数参加して合計で 100 名の聴講があった。
- ・ 7/20 に SSSC との共催で、VLSI Symposium 報告会があり。(今年は EDS 東京が主催)。EDS 関西 Chapter からも多くの参加があった。
- ・ 10/7 第 22 回関西コロキウム電子デバイスワークショップを開催した。これは過去一年(2021年 4 月～2022 年 3 月)の主要 Conference や論文誌の中から、関西に関係のある技術者による優れた論文を選定し、著者本人に講演してもらうもので、9 件の論文を選定し、Best Paper Award と Student Award がそれぞれ 1 件選出された。参加者は 70 名であった。
- ・ 11/28-30 の 3 日間で 2022 The International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK 2022)を開催した。昨年までコロナのためオンラインのみであったが、今年は 関西 Chapter 20 周年として京都の龍谷大学響都ホールと Zoom Online の Hybrid 開催となった。KeyNote 2 件、招待講演 13 件、Regular 14 件、Poster 20 件が発表された。また 20 周年記念として設立時の歴代 Chapter Chair 3 名の方に出席頂き、特別講演を 3 件して頂いた。SSSC 関西 Chapter からの特別セッションとして 4 件(うち 2 件は招待)の講演があった。Regular 講演から 1 件 Best Paper Award に、Poster Session から Student Award が 3 件選出された。この他に特別講演の 3 名の歴代 Chair に功労賞(Distinguished Service Award)を、過去 20 年間に IMFEDK に投稿された論文のうち、最も多く引用された Most Download Award を 3 名の方に授与した。3 日間での、のべ 436 名の方が(会場とオンライン)参加され、盛大なイベントが実施できた。

【2023 年活動計画】

2023 年もコロナの状況を見ながら、また、コロナ禍きっかけであったが皆がそのメリッ

トを感じ始めたオンライン開催も重視しつつ、引き続きオンラインまたは現地開催、もしくは併用での活動を展開する。特に若手研究者を主な対象とした学会や講演会の開催を通じて、質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。

具体的には以下のような計画を予定している。

- ・ 日程は未定であるが、前半に主に若手研究者・学生を対象に電子デバイスの材料からデバイス特性まで、それらの分野で卓越した成果を上げている研究者を招待して講演いただく技術講演会・DLを1-2回開催予定である。また昨年から引き続き、半導体産業の活性化のため企業メンバーを中心にラウンドテーブルを1-2回開催予定である。
- ・ 7月に行われるVLSIシンポジウム報告会を担当する予定である。
- ・ 後半には9月末に"第22回関西コロキウム電子デバイスワークショップ"を開催する。講師には国際レベルの研究成果を日本語にて発表して頂く予定である。先進性に優れていると判断された論文の著者にAwardを授与し、その学術的貢献を表彰する。
- ・ 11月後半に国際会議"2023 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK 2023)"を龍谷大学アバンティ響都ホールおよびオンラインのハイブリッド開催を予定している。例年通り、招待講演(Keynote および Invited)、一般講演およびポスター講演(ショートプレゼンテーション付き)を実施する。幅広い分野で、最先端の話題を講演頂き、また学生や若手研究者を中心の発表により、会員の活発な技術交流と教育の場を提供する。先進性に優れていると判断された論文の著者にAwardを授与し、その学術的貢献を表彰する。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/eds/>

b. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

【2022年活動報告】

3月19日にハイブリッド形式で開催された、集積回路研究会 学生・若手研究会(主催:電子情報通信学会 集積回路研究会)に協賛した。参加人数は14名であった。

3月22日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で技術セミナー (ISSCC 2022 国内報告会)をハイブリッド形式で開催した。全8件の講演があり、参加人数は161名であった。

4月11日~12日にハイブリッド形式で開催された、集積回路研究会 (主催:電子情報通信学会 集積回路研究会)に協賛した。参加人数は88名であった。

5月9~10日に、電子情報通信学会集積回路研究専門委員会との共催で、“LSI とシステムのワークショップ 2022”をハイブリッド形式で開催した。参加人数は427名であった。

7月20日に、IEEE EDS Kansai Chapter、IEEE SSCS Japan Chapter、IEEE EDS Japan Chapter と共催で技術セミナー (VLSI Symposia 2022 国内報告会)をオンラインで開催した。全16件の講演があり、参加人数は189名であった。

8月6日~7日にハイブリッド形式で開催された、集積回路研究会 夏の合宿(主催:電子情報通信学会 集積回路研究会)に協賛した。参加人数は29名であった。

8月8日～10日にオンラインで開催された、集積回路研究会（主催：電子情報通信学会 集積回路研究会）に協賛した。参加人数は83名であった。

9月15日に、東京大学大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター（d.lab）主催でD2Tシンポジウムをハイブリッド形式で開催した。参加人数は、135名であった。

9月16日に、電子情報通信学会集積回路研究専門委員会との共催で、アクセラレーション技術発表討論会をハイブリッド形式で開催した。参加人数は、70名であった。

9月30日～10月1日に、東京大学d.lab-VDECと共催でd.lab-VDEC Designer's Forum 2022をハイブリッド形式で開催した。参加人数は、34名であった。

10月16日～17日にハイブリッド形式で開催された、集積回路研究会 夏の合宿（主催：電子情報通信学会 集積回路研究会）に協賛した。参加人数は43名であった。

10月25日にハイブリッド形式で開催された、ハードウェアセキュリティ研究会に協賛した。参加人数は59名であった。

11月28日～30日にハイブリッド形式で開催された、デザインガイア 2022に協賛した。参加人数は399名であった。

12月17日～19日にハイブリッド形式で開催された、集積回路研究会 学生・若手研究会に協賛した。参加人数は71名であった。

【2023年活動計画】

2023年も引き続き技術講演会を中心に活動を展開し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。グローバルな流れを考えると、対面でのイベント開催とオンラインでのイベント開催のハイブリッド形式の実施を目指す。関西地区等で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛し、協賛金とAwardを出し、会員獲得に努める計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sscs/>

c. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

【2022年活動報告】

2022年は、2件の技術講演会を主催した。また、1件の国内イベントを共催、8件の国内学会に協賛した。技術講演会はオンライン開催としたが予想を超えた参加者数となり盛況となった。主催イベント、共催・協賛イベントの詳細は以下の通りである。

[主催]

- ・11月25日 技術講演会 “ニューラルプロセッシングユニットの現状と未来 (Present and Future of Neural Processing Unit)” 劉 載勲 氏 (東京工業大学 科学技術創成研究院)
- ・12月20日 技術講演会 “カーボンニュートラルに貢献する V2X エネルギーソリューション (V2X energy solution that contribute to carbon neutrality)” 遠藤 浩輝 氏 (株式会社GS ユアサ)

[共催・協賛]

- ・5月9日～10日 LSIとシステムのワークショップ 2022 に協賛
- ・10月9日 博士課程のキャリアについて語る会 第4回を共催
- ・10月24日～25日 24th Workshop on Synthesis And System Integration of Mixed Information technologies (SASIMI 2022) に協賛
- ・11月11日 第199回システムとLSIの設計技術研究発表会に協賛
- ・10月17日 システム制御情報学会セミナー2022「トポロジー最適化の最新動向と産業応用」に協賛
- ・10月18日 京都グリーンラボ / ムーンショット目標6 課題:「スケーラブルな高集積量子誤り訂正システムの開発」キックオフシンポジウムに協賛
- ・11月28日 Young CAS Researchers Workshop に協賛
- ・11月28日～30日 デザインガイア 2022 に協賛
- ・12月21日 WiCAS Blended Meeting に協賛

以上、最新技術動向に関する技術講演会を開催するとともに、IEEE Kansai Young Professionals Affinity Group との共催、他学会主催の国内大会の協賛も実施し、参加者との交流を通じた CASS 関西チャプターの活動のアピールと会員の獲得に努めた。また、若手研究者の研究を奨励する目的で、「IEEE CASS Kansai Chapter Best Student Presentation Award」を新設し、1名に授与した。なお、実施した講演会や今後の予定については、詳細を後述の URL に掲載している。

【2023年活動計画】

2023年は、技術講演会を主催・共催として企画・実行することを中心に活動し、学生や若手研究者・技術者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。著名な国外研究者が集まる国際会議やプログラム委員会の開催に合わせて、講演会を開催することも検討する。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを共催、あるいは協賛し、学会活動に貢献するとともに会員獲得に努める計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cas/>

d. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Joint Chapter

【2022年活動報告】

昨年に引き続き、(1) 関西圏におけるアンテナおよび無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、(2) 各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ること、を基本的なミッションとして活動を進めた。2022年は、主催技術会議3件を実施した。

【主催技術会議】

1. 5月19日に、神戸ポートオアシス 503 会議室・オンラインのハイブリット形式にて、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催した。講演者として何一偉氏（大阪電気通信大学）をお招きし、「地下探査レーダから始めた電磁波の近似解析と FDTD 数値解析」

と題してご講演いただいた。

2. 9月15日に、愛媛県美術館 講堂・オンライン形式にて、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催した。講演者とし沼田 真里 氏（新居浜工業高等専門学校）をお招きし、「コンテンツツーリズムと愛媛 -正岡子規から「坂の上の雲」まで-」と題してご講演いただいた。
3. 12月26日に、京都大学宇治キャンパス 宇治おうばくプラザ セミナー室 1・オンライン形式にて、IEEE MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を共同主催した。講演者として阿戸 弘人 氏（三菱電機株式会社）、竹田 真理 氏（パナソニック株式会社 エレクトリックワークス社）、二神 大 氏（富士ウェーブ株式会社）をお招きし、それぞれ「美笹深宇宙探査用地上局の X 帯/Ka 帯アンテナ技術」、「屋内位置情報システムの開発紹介」、「富士ウェーブでのワイヤレス給電の社会実装に向けた取り組みについて」と題してご講演いただいた。また、各大学等からのポスター展示を行い、活発な討論が行われた。

【2023年活動計画】

昨年に引き続き、(1) 関西圏におけるアンテナや無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、(2) 各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ること、を基本的なミッションとして活動し、オンラインにおける IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を計画するとともに、次世代の超高速ワイヤレス通信システムを支えるアンテナ・伝搬技術ワークショップおよび MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を開催することを予定している。現時点で主催技術会議 4 件、協賛等技術会議 1 件が予定されている。

【主催技術会議】

1. 2023年1月19日に、広島工業大学 広島校舎・オンラインのハイブリット形式にて、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催する。講演者として濱崎 利彦 氏（広島工業大学）をお招きし、「農林水産業 IoT に向けた無線センサネットワーク構築支援シミュレータの開発」と題してご講演いただく。
2. 2023年4月13日に、大阪大学・オンラインのハイブリット形式にて、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催する。講演者は現在選定中である。
3. 2023年9月28日に、高知某所・オンラインのハイブリット形式にて、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催する。講演者は現在選定中である。
4. 2023年12月某日に、IEEE MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を共同主催する予定である。講演者は現在選定中である。

【協賛等技術会議】

1. 2023年3月16、17日に、京都大学 宇治キャンパス 木質ホール 3F・オンラインのハイブリット形式にて、電子情報通信学会通信ソサイエティ無線電力伝送研究専門委員会主催「無線電力伝送研究会第20回コンテスト 整合回路コンテスト」が開催され、協賛する。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/aps/>

e. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

【2022 年活動報告】

2022 年は技術講演会を 2 回主催、1 回協賛した。

[技術講演会] 主催

7 月 26 日 Zoom オンライン開催

Title: Bruce Lee Inspired Fluid Antenna Systems for 6G

Speaker: Kai-Kit Wong

参加者数: 28 名

12 月 16 日 Zoom オンライン開催

Title: How does edge intelligence shift the paradigm of wireless communications?

Speaker: Prof. Kaibin Huang, The University of Hong Kong

参加者数: 21 名

[技術講演会] 協賛

第 13 回 光・電波フォーラム・進化する半導体技術の現状と最新動向

11 月 30 日 Zoom オンライン開催

講演者: 内山 邦男

演題: AI チップの開発動向と AI チップ設計拠点の活動

講演者: 磯部 良彦

演題: 車載半導体の歴史と今後の展開

講演者: 松尾 慎治

演題: シリコンフォトニクスプラットフォーム上低消費電力化合物光デバイスの研究動向

参加者数: 42 名

広報活動を活性化するため、Web サイトを活用して COMS Kansai Chapter に関する情報公開を行っている。活動計画や報告は下記の URL により提供している。

【2023 年活動計画】

関西圏における通信技術に関わる技術者との交流をはかり、産業界とのつながりをもちつつ活性化を行うことを目的として講演会を開催する。加えて、通信技術に関わる研究者に議論と交流の場を提供し、会員数増加を目標に活動を行う。今年はできるだけオンライン開催も含めて開催数を増やすようにする。春以降に講演者を招待し、IEEE COMS Kansai Chapter 技術講演会を主催する。また、他の研究講演会への積極的な共催をはかり、周知活動を行うことで参加数増加を促し会員獲得を目指す。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/coms/>

f. CS (Computer Society) Kansai Chapter

【2022 年活動報告】

2022 年は 1 件の技術講演会の主催、IEEE 関西 YP 主催「博士課程のキャリアについて語る会」の共催、及び 5 件の協賛を行った。技術講演会の内容は以下の通りである。

2022 年 8 月 18 日 (木) に、オンラインに於いて、「3 次元データの活用」をテーマとし、2 件の講演を行った。1 件目は「生活環境で動作するロボットにおける画像認識と 3 次元的理解」と題して、理化学研究所/名古屋大学/NAIST の川西氏に、理研ガーディアンロボットプロジェクトにおける取り組みと、その周辺認識と 3 次元的理解についての研究についてご紹介頂いた。2 件目はパナソニック株式会社の杉尾氏に、近年活用が進むセンサデバイスにより増加の一途をたどる 3 次元データについて、国際標準化団体 MPEG にて策定されたデータ圧縮規格のご紹介を頂いた。講演会では、22 名 (内 IEEE 会員 14 名) の参加登録を集めて活発な質疑応答が行われ、貴重な技術交流の場を持つことができた。

また CS Tokyo/Japan Chapter と共同で IEEE CS Kansai Young Author Award の募集と選考を実施した。昨年、一昨年と対象者なしであったが、今年は IEEE CS Kansai Young Author Award として初の授賞となった。

【2023 年活動計画】

2023 年は引き続き技術講演会及び Young Author Award を実施するとともに、学生や若手研究者を主な対象とした研究活動の奨励と質の高い技術情報提供を行い、積極的な IEEE 会員獲得を目標とする。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cs/>

g. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

【2022 年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. IEEE MTT-S Kansai Chapter 特別講演 (主催)

演者 : Prof. Mingyu Lu (West Virginia University, USA)

演題 : Wireless Power Transmission based on Retro-Reflective Beamforming

年月日/会場 : 2022 年 3 月 8 日/オンライン開催 (Zoom ウェビナー利用)

出席者数 : 42 名 (会員 26 名、非会員 38 名)

2. IEEE MTT-S Kansai Chapter, IEEE PS Kansai Chapter ワークショップ (共催)

「光技術を用いた超低位相雑音マイクロ波～テラヘルツ波の発生技術」

(1) 演者 : Shubhashish Datta (Discovery Semiconductors, Inc.)

演題：Highly Linear InGaAs Photodiodes for Precise Timing Applications over Wide Spectral Range

(2) 演者：伊藤 弘（北里大学）

演題：高速・高出力フォトダイオード：UTC-PD

(3) 演者：石澤 淳（日本大学）

演題：電気光学変調器による光コムを用いた極低雑音マイクロ波発生

(4) 演者：鐵本 智大（情報通信研究機構）

演題：マイクロリング共振器を用いた Kerr 光周波数コムによるテラヘルツ波発生

年月日／会場：2022年6月25日／オンライン開催（Zoom ウェビナー利用）

出席者数：43名（会員30名，非会員13名）

3. IEEE MTT-S Kansai Chapter ワークショップ（主催）

「IoT 技術の最新動向と応用」

(1) 演者：中野 久松（法政大学大学院電磁波工学研究所）、平松 信樹（京セラ株式会社）

演題：IoT に関するアンテナ技術

(2) 演者：伊藤 浩之（東京工業大学）

演題：Edge AI 技術を活用したウシモニタリングシステム

(3) 演者：野林 大起（九州工業大学）

演題：L5G を活用した産業用ロボット制御実証における 28GHz 帯無線伝送特性評価

(4) 演者：石野 祥太郎（古野電気）

演題：建設業界における IoT 活用とその事例

年月日／会場：2022年10月15日／オンライン開催（Zoom ウェビナー利用）

出席者数：46名（会員26名，非会員20名）

4. 第15回マイクロ波英語発表会（主催）

年月日／会場：2022年11月19日／龍谷大学 瀬田キャンパス REC ホール（小ホール）

発表件数：19件／参加者数47名（会員16名，非会員31名）

5. IEEE AP-S Kansai Joint Chapter/MTT-S Kansai Chapter 合同若手技術交流会 2022（共催）

（第一部）講演

(1) 演者：阿戸 弘人（三菱電機株式会社）

演題：美笹深宇宙探査用地上局の X 帯/Ka 帯アンテナ技術

(2) 演者：竹田 真理（パナソニック株式会社）

演題：屋内位置情報システムの開発紹介

(3) 演者：二神 大（富士ウェーブ株式会社）

演題：富士ウェーブでのワイヤレス給電の社会実装に向けた取り組みについて

(第二部) ポスターセッション

年月日/会場：2022年12月26日/ (第一部) 京都大学宇治キャンパス 宇治おうばくプラザ セミナー室 1 およびオンラインのハイブリッド開催 (Zoom 利用)、(第二部) オンライン開催 (oVice 利用)

出席者数：45名 (会員19名, 非会員26名)

II. 選奨

1. IEEE MTT-S Kansai Chapter Best Young Presentation Award

I. の 4. に記載の英語発表会で優れたプレゼンテーションを行った者に「Best Presentation Award」を授与した。更に、上位1名に対して「IEEE MTT-S Kansai Chapter Best Young Presentation Award」を授与した。授与式は2022年12月26日にオンラインで実施。

2. IEEE MTT-S Japan Young Engineer Award

MTT-S Japan/Kansai/Nagoya Chapter の合同で、マイクロ波の理論および技術の分野に貢献する論文を発表した若手(38歳以下)の研究者個人に「IEEE Microwave Theory and Techniques Society Japan Young Engineer Award」を贈呈した。また、その中から特に優れた論文の著者に対して「Mitsuyuki Uenohara Memorial Award」を進呈した。

※受賞者は以下に記載

https://www.ieee-jp.org/section/tokyo/chapter/MTT-17/award/YEA_past_awardees/index.html

※対象者の要件等は以下に記載

<https://www.ieee-jp.org/section/tokyo/chapter/MTT-17/award/index-j.html>

III. 協賛

1. 第16回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム (主催：JEMEA)

2022年10月12日～14日 オンライン

2. 2022 Asia-Pacific Microwave Conference (APMC 2022) および 2022 Microwave Workshops & Exhibition (MWE 2021)

2022年11月29日～12月2日 パシフィコ横浜

Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

1. KC 役員会

2022年1月29日/ Web 会議 出席者数：11名

2022年12月8日/ Web 会議 出席者数：8名

2. JC/KC/NC 合同役員会

2022年3月28日/ Web 会議 Chapter からの出席者5名

2022年9月16日/ Web 会議 Chapter からの出席者3名

3. 2022年 IEEE 関西支部総会

2022年2月22日/ ハイブリッド開催 Chapter からの出席者1名

4. 2022年 IEEE Chapter Operation Committee

2022年6月8日 ハイブリッド開催 Chapter からの出席者数：1名

2022年10月20日 ハイブリッド開催 Chapter からの出席者数：1名

【2023年活動計画】

2023年は、コロナの状況を見据えながらオンライン/オフライン/ハイブリッドで開催形式を検討しつつ、従来通り技術講演会、若手技術者交流会、英語発表会を中心に活動を行う。技術領域としてはこれまでの戦力領域の枠組みに拘らず、新領域分野の開拓も検討する。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを積極的に共催/協賛し、学会活動への貢献と会員獲得に努める計画である。マイクロ波英語発表会での優秀な発表者2名にIEEE MTT-S Kansai Chapter Best Young Presentation Awardを授与し、国際的に活躍できる若手技術者の育成を強化する。また、マイクロ波の理論および技術の分野に貢献する論文を発表した若手研究者3名にIEEE MTT-S Japan Young Engineer Awardを授与し、その学術的貢献を表彰する。FellowおよびSenior Memberへの昇格候補者支援も、引き続きMTT-S Japan Chapter、MTT-S Nagoya Chapterと共同で行う。2014年より運用し始めた電磁波関連分野の学生と電磁波技術者を求めている企業の間を橋渡しする「マイクロ波 出会いの広場」をより効果的な運用に推進するとともに、この橋渡しを就職活動だけでなく学生のインターンシップなどにも展開する計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/mtts/>

h. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

【2022年活動報告】

Technical Meetingとしては、1月27日(木)に、オンラインにて、第1回IEEE Photonics Society Kansai Chapter 特別講演を主催、藤井拓郎氏 (NTT 先端集積デバイス研究所) から「データコムの大容量化に向けたメンブレンレーザの進展」、前田幸一氏 (古河電気工業 情報通信・エネルギー研究所) から「マルチコア増幅技術」という題目でそれぞれご講演いただいた。参加者は28名と盛会であった。これは、次の日の28日(金)も含む2日間にわたってオンラインにて開催された、電子情報通信学会 MWP/PN/EMT/PEM、電気学会 EMT 研究会との併催である。

6月25日(土)には、オンラインにて、IEEE MTT-S Kansai Chapter との主催/共催で講演会 (共催)「光技術を用いた超低位相雑音マイクロ波～テラヘルツ波の発生技術」ワークショップを開催した。海外からの講師 Shubhashish Datta 氏 (Discovery Semiconductors, Inc.)をはじめ伊藤 弘氏 (北里大学)、石澤 淳氏 (日本大学)、鐵本智大氏 (情報通信研究機構) の4名からご講演いただいた。参加者は40名と盛会であった。

11月7日(日)には、オンラインにて、「第7回 IEEE Photonics Society Kansai Chapter 英語発表会」を主催した。7名の学生による英語での発表のほか、Yaman Parasher 氏 (Exchange student from PIXNET in Osaka University) から “Erasmus Mundus Joint Master Degree - Photonic Integrated Circuits, Sensors and NETWORKS (PIXNET) -”、中野 誠二氏 (三菱電機) から「Beyond 5Gに向けた100Gbps/λ PAM4 EML TO-CAN

の開発」と題してご講演いただいた。学生の優れた発表 1 件に対しては Best Student Presentation Award と副賞を授与した (Chapter 支援費を利用)。参加者は 30 名であった。

8 月 25 日 (木) - 26 日 (金) には、オンラインで開催された電子情報通信学会レーザ・量子エレクトロニクス研究会 8 月研究会に協賛、西山伸彦氏 (東工大/光電子融合基盤技研) からのご講演を含む招待講演 11 件があった。参加者は 75 名と盛会であった。

12 月 8 日 (木) - 9 日 (金) には、ハイブリッドで開催された電子情報通信学会 OPE/LQE/PICS 合同研究会 Photonic Device Workshop 2022 に協賛、半導体レーザの高速化に関するチュートリアル講演などを含む招待講演 15 件、OPE/LQE 1 種研として併催したポスター発表 21 件があった。PDW2022 の参加登録者は 131 名であり、参加延べ人数(30 分以上の Zoom 接続)は 216 名と盛会であった。

Administrative Meeting としては、1 月、5 月、6 月、7 月、9 月、10 月、11 月、12 月にオンラインで役員会を 8 回開催、年間活動方針、Technical Meeting の企画、運営について協議した。

【2023 年活動計画】

2023 年も、技術講演会の開催を中心に活動を展開する。1 月 24 日には、例年通り電子情報通信学会 PN/MWP/EST/EMT/PEM 合同研究会と併催の形で特別講演イベントを主催するほか、2021 年度から新しく始めた IEEE 国際会議招待講演からの講演会を企画する予定である。また、好評であった学生英語発表会も開催する予定である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/pho/>

i. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

【2022 年活動報告】

電子情報通信学会音声研究会・情報処理学会音声言語処理研究会と協賛する形で、荒木章子氏、河原 英紀氏の Fellow 昇格記念講演を行った。

1. 国際会議 (共催) IEEE LifeTech2022

Fellow 昇格記念講演会 (協賛)

演 者 : Dr. Shoko Araki

演 題 : 雑音残響下での音声のブラインド音源分離

年月日/会場 : 2022 年 11 月 30 日 東京都港区芝公園 3 丁目 5-8 機械振興会館 6-66 会議室

出席者数 : 60 名

2. 国際会議 (共催) IEEE LifeTech2022

Fellow 昇格記念講演会 (協賛)

演 者 : Prof. Hideki Kawahara

演 題 : 半世紀以上も音声・聴覚を研究しているのか!? ~想定外が面白い~

年月日／会場： 2022年12月1日 東京都港区芝公園3丁目5-8 機械振興会館 6-66 会議室

出席者数： 55名

学生賞に関する活動として、IEEE SPS Tokyo Joint Chapter および IEEE SPS Sendai Chapter との連名により、IEEE SPS Japan Student Journal Paper Award、IEEE SPS Japan Student Conference Paper Award、 および IEEE SPS Japan Young Author Best Paper Award を実施し、それぞれ2名、3名、3名の受賞者を選定・表彰した。

京都大学情報学研究科知能情報学専攻と共催する形で、Prof. Mark Hasegawa-Johnson の講演会を行った。

1. 講演会（主催）

演 者： Prof. Mark Hasegawa-Johnson

演 題： Self-supervised pre-training for supervised ASR and unsupervised TTS in non-Western languages

年月日／会場： 2022年8月2日 京都大学+オンライン

出席者数： 現地40名+オンライン22名

以下の Technical Meeting を共催した。

1. 第54回ストカスティックシステムシンポジウム（SSS' 22）

2022年10月14日～15日

奈良県立コンベンションセンター

参加者： 79名、特別講演： 1件、一般講演 56件

2. 第37回信号処理シンポジウム

2022年12月13日～15日

新潟市朱鷺メッセ

発表： 101件、特別講演 3件

【2023年活動計画】

引き続き、講演会を開催し、会員を中心とする国内外の学術交流を図る。

IEEE SPS Tokyo Joint Chapter、Sendai Chapter と連名で論文賞および学生賞の表彰を実施し、若手の研究を奨励するとともに、会員増加に努める。

これらの活動については下記 Web サイトで公開している。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sps/>

j. CTS (Consumer Technology Society) West Japan Joint Chapter

【2022年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. 国際会議（共催） IEEE LifeTech2022
 年月日／会場：2022年3月7日～3月9日／千里ライフサイエンスセンター
 出席者数：210名（日本人177名、12ヵ国33名）
 発表件数：163件（口頭発表113件、ポスター47件、デモ3件）
 内容： IEEE LSTC 主催の国際会議。ISTC は IEEE のライフサイエンスに関する、CT Society を含む5つの Society で構成する Council。長谷智弘教授（龍谷大学）が Conference Chair として創設。CT Society West-Japan Chapter のメンバーが運営の中心的な役割を担った。
2. 国際会議（主催） IEEE 10th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2022)
 年月日／会場：2022年10月18日 - 21日／千里ライフサイエンスセンター
 発表件数：335件
 出席者数：465名
 内容： CT Society の長谷教内容：CT Society の長谷教授が設立した国際会議。毎年10月に IEEE 主催の国際会議として日本で開催している。GCCE 2022 の運営主体は CT-08 West Japan Chapter で、主たる運営はその会員で行なった。
3. 国際会議（共催） 2022 TRON Symposium
 年月日／会場：2022年12月7日～12月9日／東京ミッドタウン
 出席者数：100名（IEEE CT Society が共催）
 内容： CT Society の共催（Technical Sponsor）により、国際会議 2020 TRON Symposium を開催した。同場所で開催の TRONSHOW（6,000名参加）の一環として開催。長谷智弘教授（龍谷大学）が Vice-Chair として運営参加。

Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

1. チャプター役員会
 年月日／会場：2022年3月7日／千里ライフサイエンスセンター
 出席者数：3名
 2022年の運営体制に関して打合せを実施した。
2. チャプター役員会
 年月日／会場：2022年7月23日／湘南工科大学 出席者数：3名
 2022年のGCCE2022およびTRON Symposium 準備に関して打合せを実施した。
3. チャプター役員会
 年月日／会場：2022年10月14日／千里ライフサイエンスセンター
 出席者数：6名
 GCCE 2022の準備状況を確認し、今後の進め方に関して打合せを実施した。

【2023 年活動計画】

1. GCCE 2023:

2023 年 10 月 12 日～15 日に吹田市の千里ライフサイエンスセンターにて国際会議 GCCE 2023 を開催する。GCCE 2023 では Young Profession イベントを通じて新規若手会員の獲得に努める。

2. 2023 TRON Symposium:

12 月中旬に東京ミッドタウンで国際会議 2022 TRON Symposium (CT Society の共催 (Technical Sponsor)) を開催する。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/ces/>

k. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

【2022 年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. 講演会 (IEEE CSS Kansai Chapter Special Lecture on CSS Day 2022) (主催)

演 者 : Kai Cai (大阪公立大学)

演 題 : Congruences and Quotients: A Model-Independent Structural Approach in Systems and Control

年月日/会場 : 2022 年 10 月 19 日 / オンライン

発表件数 : 1 件

出席者数 : 103 名

II. 協賛

1. 第 9 回 制御部門マルチシンポジウム

年月日/会場 : 2022 年 3 月 7 日 - 10 日 / オンライン開催

発表件数 : 236 件

出席者数 : 485 名

2. システム制御情報学会・計測自動制御学会 チュートリアル講座 2022

(主催 : システム制御情報学会, 計測自動制御学会)

年月日/会場 : 2022 年 7 月 5 日 / 大阪大学銀杏会館、2022 年 7 月 29 日 / オンライン

発表件数 : 4 件

出席者数 : 65 名

3. The 54th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications (主催 : システム制御情報学会)

年月日/会場 : 2022 年 10 月 14~15 日 / 奈良県コンベンションセンター・オンライン

発表件数： 56 件

出席者数： 80 名

4. 第 6 5 回自動制御連合講演会（主催：日本機械学会）
年月日／会場： 2022 年 11 月 12, 13 日／宇都宮大学
発表件数： 3 2 3 件
出席者数： 5 5 4 名
5. システム制御情報学会セミナー2022（主催：システム制御情報学会）
「トポロジー最適化の最新動向と産業応用」
年月日／会場： 2022 年 11 月 17 日／京都テルサ（京都市）・オンライン開催
発表件数： 4 件
出席者数： 2 9 名

Non-Technical Meetings

Chapter 役員会

1. 第一回役員会
年月日／会場：2022 年 4 月 19 日／オンライン 出席者数： 4 名
2. 第二回役員会
年月日／会場：2022 年 11 月 12 日／宇都宮大学 出席者数： 2 名

【2023 年活動計画】

2023 年は、主催・共催行事の開催を検討する他、例年通り下記の学会に協賛をする予定。

1. 計測自動制御学会 第 1 0 回制御部門マルチシンポジウム
2. ISCIE・SICE チュートリアル講座
3. The 55th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications
4. 第 6 6 回自動制御連合講演会
5. システム制御情報学会セミナー

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/css/>

1. IES (Industrial Electronics Society) Japan Joint Chapter

【2022 年活動報告】

Technical Meetings

- I. 主催/共催
 1. 講演会（共催）
演 者： IEEE IES Japan Joint Chapter
演 題： パワーエレクトロニクス学会 第 242 回研究会（4 月）
年月日／会場： 2022 年 4 月 18 日 大阪工業大学梅田キャンパス・Web (Zoom)
発表件数： 4 件

出席者数： 65名（内訳：現地 21名，オンライン 44名）

2. 講演会（共催）

演者： IEEE IES Japan Joint Chapter

演題： パワーエレクトロニクス学会 243 回定例研究会（6月）

年月日／会場： 2022年6月11日 Web開催（Zoom）

発表件数： 4件

出席者数： 51名

3. 講演会（共催）

演者： IEEE IES Japan Joint Chapter

演題： パワーエレクトロニクス学会 244 回定例研究会（8月）

年月日／会場： 2022年8月6日 Web開催（Zoom）

発表件数： 4件

出席者数： 40名

4. 講演会（共催）

演者： IEEE IES Japan Joint Chapter

演題： パワーエレクトロニクス学会 245 回定例研究会（10月）

年月日／会場： 2022年10月15日 Web開催（Zoom）

発表件数： 5件

出席者数： 47名

5. 講演会（共催）

演者： IEEE IES Japan Joint Chapter

演題： パワーエレクトロニクス学会 246 回定例研究会（12月）

年月日／会場： 2022年12月3日 Web開催（Zoom）

発表件数： 25件

出席者数： 85名

II. 協賛

1. スマートエネルギーセミナー「ローカル VPP とマイクログリッド ～EV の蓄電池としての活用、V2G、地産地消、電力融通～」

（主催：大阪工業大学／芝浦工業大学／福岡スマートハウスコンソーシアム / 一般社団法人 DELIA／電気学会ローカル VPP を目指す分散エネルギー技術調査専門委員会）

年月日／会場：2022年1月27日 東京ビッグサイト会議棟（609 会議室）

発表件数： 11 件

出席者数： 39 名

Non-technical Meetings

1. 2022 年度 IEEE IES JJC 第 1 回 幹事会議

年月日／会場：2022年4月4日 Web開催

出席者数： 6名

Chapter 支援費利用事業

1. IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award
(2022年4月16日実施)

IEEE IES Japan Joint Chapter が共催して2021年に開催されたパワーエレクトロニクス学会定例研究会で発表された論文の中から、35歳以下の若手によるもの1件の優秀な発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award を授与し、副賞として Quo カード 1万円分を授与した。

主旨：(B) 若手獲得・育成の企画

利用支援費 1万円

内訳：副賞(1万円) / 件 × 1件

2. 2022 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞

IEEE IES Japan Joint Chapter が共催して2022年12月に開催されたパワーエレクトロニクス学会定例研究会における学生・若手技術者によりポスター形式の発表の中の優秀発表2件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter 若手優秀発表賞を授与し、副賞として Quo カード1万円分を授与した。

主旨：(B) 若手獲得・育成の企画、利用支援費1万円

内訳：副賞(1万円) / 件 × 2件

【2023年活動計画】

パワーエレクトロニクス学会と共催で、4月、6月、8月、10月、12月に定例研究会の開催が予定されている。

また、以下の表彰を行う計画である。

2023 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award

IEEE-IES Japan Joint Chapter が毎回共催しているパワーエレクトロニクス学会定例研究会(12月の研究会は対象から除外する)の満35歳以下(ただし発表時点において)の最優秀論文1件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter Young Engineer Award を授与する。

2023 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞

IEEE-IES Japan Joint Chapter が共催して12月に開催されるパワーエレクトロニクス学会定例研究会では学生・若手技術者によりポスター形式で30件程度の発表会が行われている。その中の優秀発表2件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter 若手優秀発表賞を授与する。

その他、下記セミナーへ協賛予定である。

産業応用フォーラム

「次世代送配電への潮流を乗り切るローカル VPP ビジネス
—脱炭素エネルギー革新とニュービジネスの胎動—」

日 時 2023 年 2 月 24 日(金) 10:00 ~ 17:00

会 場 大阪工業大学 梅田キャンパス 常翔ホール

スマートエネルギーセミナー

ローカル VPP とマイクログリッド

～EV の蓄電池としての活用、防災、V2G、地産地消、電力融通～

日 時 2023 年 2 月 2 日(木) 10:00 ~ 16:15(受付開始 9:30)

会 場 東京ビッグサイト 会議棟(610 会議室)

これらの活動については下記の Web サイトで広報を行う。

URL <http://www.ieeeiesjapanchapter.blogspot.jp/>

m. MAG (Magnetic Society) Kansai/Shikoku Joint Chapter

【2022 年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. MRIS 2021 (共催)

年月日/会場：2022 年 3 月 4 日 Webinar

発表件数：8 件

出席者数：57 名

2. IEEE Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetics Society Chapter Lecture (主催)

演 者：Dr. Tomonori Arakawa (AIST, JAPAN)

演 題：A circularly polarized microwave spectroscopy

年月日/会場：2022 年 6 月 3 日 大阪公立大学

出席者数：18 名

3. IEEE Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetics Society Chapter Lecture (主催)

演 者：Prof. Hiroshi M. Yamamoto (Institute for Molecular Science (IMS), JAPAN)

演 題：Emergent physical properties of strongly-correlated electron system in organic semiconductor electronics

年月日/会場：2022 年 6 月 9 日 大阪公立大学

出席者数：37 名

II. 協 賛

4. MORIS2022 (Magnetics and Optics Research International Symposium 2022)

年月日/会場：2022 年 5 月 16 日-5 月 19 日 くにびきメッセ、松江市、島根県

発表件数：63 件

出席者数：78名

5. 3rd West Japan EMC Workshop (主催：西日本 EMC, 神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科)

年月日/会場：2022年6月17日 神戸大学統合研究拠点コンベンションホール

発表件数：22件

出席者数：47名

Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

1. Chapter meeting

年月日/会場：2022年9月8日 大阪公立大学 出席者数：23名

【2023年活動計画】

2023年は、関西・四国圏の磁性関連研究者を対象に、技術講演会の開催や学生・若手研究者を主たる対象とした研究会を開催するなど、技術情報の提供や会員獲得に向けた活動を実施する。具体的には、春か秋の適当な時期に基調講演と学生のポスター発表会をメインとする第6回関西四国磁性研究会を開催する。同会では学生に奨励賞を授与する予定である。なお、同会は2021年から順延している。これ以外に、関西・四国地区での研究会の主催を企画する。国内の他 MAG chapter との連携を強化しており、DL講演会の共同開催などを進める。DL講演会は対面式にて再開される見込みである。また、各国の chapter 間の国際協力活動を継続し、MagSoc virtual chapters meeting を通じて、若手研究者の交流やキャリア支援や DL 推薦などを協議する。また、他学協会と研究会などを共催・協賛する予定である。特に IEEE と関わりがある日本磁気学会の研究会との共催を進める。併せて会員への情報提供のため web site の充実を図る。

URL <http://ieemag.wixsite.com/kansai-shikoku>

n. PSES (Product Safety Engineering Society) Kansai and Nagoya Joint Chapter

【2022年活動報告】

PSES (Product Safety Engineering Society) Kansai and Nagoya Joint Chapter は2021年10月21日に正式発足し、2021-2022年で以下の活動を行った。

Technical Meetings

1. 講演会(共催) (主催:IEEE PSES Dr. Jong-Moon Chung)

演者:舟木 剛 (Chair)

演題:The aim of IEEE PSES Japan Chapter establishment and the circumstances surrounding product safety design and certification in Japan

年月日/会場:2021年12月17日 remote

出席者数:40名

2. 第1回 IEEE PSES Japan Chapter ミーティング(主催)
年月日/会場:2022年1月21日/オンライン
発表件数:6件
出席者数:18名
3. 第2回 IEEE PSES Japan Chapter ミーティング(主催)
年月日/会場:2022年8月19日/オンライン
発表件数:4件
出席者数:10名
4. 第3回 IEEE PSES Japan Chapter ミーティング(主催)
年月日/会場:2022年12月23日/現地(大阪大学)+Webのハイブリッド
発表件数:5件
出席者数:13名(現地6名、Web7名)

【2023年活動計画】

2023年は最低年3回のミーティングの開催と、ホームページの立ち上げを予定。

1. 第4回 IEEE PSES Japan Chapter ミーティング(主催)
年月日/会場:2023年4月21日/現地(Cosmos Corp. 松阪)+Webのハイブリッド
2. 第5回 IEEE PSES Japan Chapter ミーティング(主催)
年月日/会場:2023年8月18日/現地+Webのハイブリッド
3. 第6回 IEEE PSES Japan Chapter ミーティング(主催)
年月日/会場:2023年12月15日/現地+Webのハイブリッド

URL 本年度立ち上げ予定

V. 関西支部会員数

1. 会員数推移状況（2022年12月末調査時点）

表. 年ごとの会員数と内訳

Year	H	LF	F	LS	SM	LM	M	AM	GSM	StM	Total
2012	0	44	38	11	118	59	1,587	82	317	78	2,334
2013	1	45	35	14	113	64	1,604	62	288	129	2,355
2014	1	46	31	20	116	69	1,594	60	271	99	2,307
2015	1	45	34	18	127	75	1,556	55	255	93	2,259
2016	1	48	30	23	126	82	1,547	61	258	82	2,258
2017	1	48	28	24	124	84	1,520	61	290	52	2,232
2018	1	41	27	23	126	88	1,539	59	266	49	2,219
2019	1	46	22	24	140	92	1,494	52	291	69	2,231
2020	1	49	21	30	145	98	1,470	45	241	55	2,155
2021	1	49	24	32	159	107	1,427	34	234	67	2,134
2022	1	49	23	34	167	111	1,433	39	238	71	2,166

Grade code H: Honorary member, LF: Life Fellow, F: Fellow,
 LS: Life Senior member, SM: Senior Member,
 LM: Life Member, M: Member, AM: Associate Member,
 GSM: Graduate Student Member, StM: Student Member

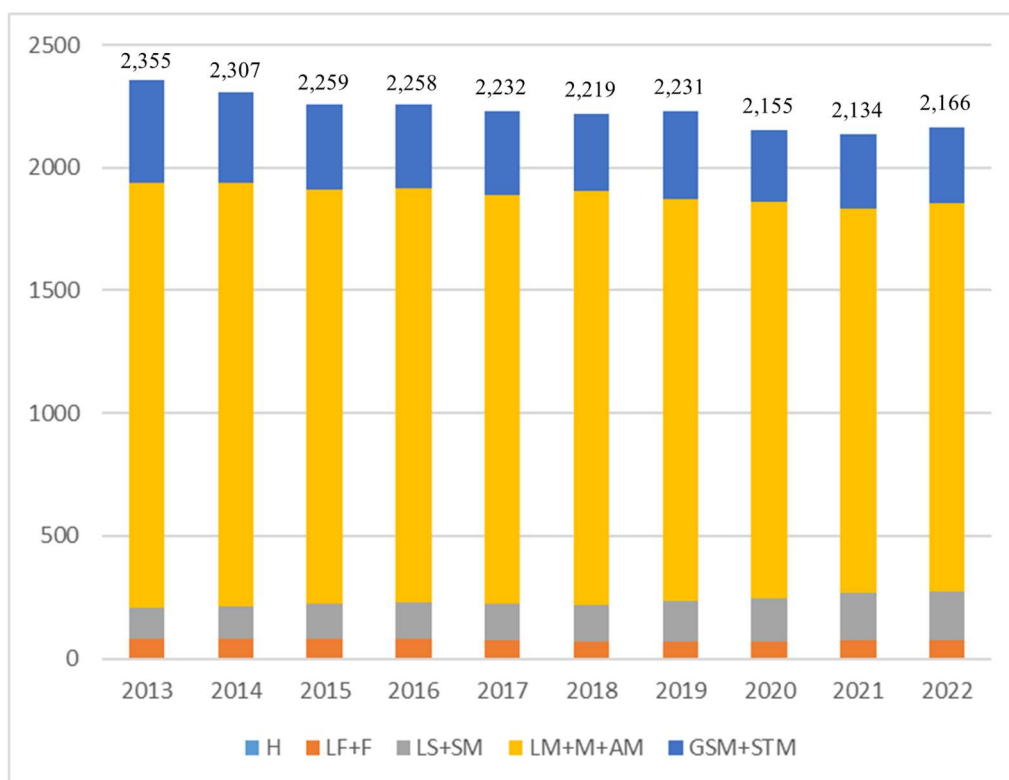


図. 会員区分の推移

2. ソサイエティ別会員数

[2022年12月31日更新]

○ 幹事Chapter

Society Code	Society Chapter Name	Established Year	関西支部メンバー数	Chapter 構成	札幌	仙台	信越	東京	名古屋	関西	四国	広島	福岡
SP-01	Signal Processing Society Tokyo Joint Chapter	1982		東京Joint	○		○	○	○		○	○	○
	Signal Processing Society Sendai Chapter	2013		仙台単独		○							
	Signal Processing Society Kansai Chapter	2007	137	関西単独						○			
BT-02	Tokyo/Japan Sections Broadcast Technology Society Joint Chapter	1983	2	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AP-03	Anntenas and Propagation Society Tokyo Chapter	1971-1972		東京Joint	○	○	○	○					
	Anntenas and Propagation Society Nagoya Chapter	2006		名古屋単独					○				
	Anntenas and Propagation Society Kansai Chapter	2006	73	関西Joint						○	○	○	
	Anntenas and Propagation Society Fukuoka Chapter	2005		福岡単独									○
CAS-04	Circuits and Systems Society Japan Joint Chapter	1971-1972		東京Joint	○	○	○	○	○				
	Circuits and Systems Society Kansai Chapter	2002	96	関西単独						○			
	Circuits and Systems Society Shikoku Chapter	2006		四国単独							○		
	Circuits and Systems Society Fukuoka Chapter	2001		福岡単独									○
NPS-05	Nuclear and Plasma Sciences Society Japan Chapter	1981	25	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
VT-06	Vehicular Technology Society Tokyo Chapter	1979	32	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
R-07	Reliability Society Japan Joint Chapter	1983	14	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
CT-08	Consumer Technology Society East Joint Japan Chapter	1983		東京Joint	○	○	○	○					
	Consumer Technology Society West Joint Japan Chapter	2008	25	関西Joint						○	○	○	○
IM-09	Instrumentation and Measurement Tokyo/Japan Sections Joint Chapter	1973	11	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AES-10	Aerospace and Electronic Systems Society Japan Chapter	1991	11	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
CIS-11	Computational Intelligence Society Japan Chapter	2004	86	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
IT-12	Information Theory Society Japan Chapter	1981	44	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
IE-13	Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter	1981	72	関西Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TEM-14	Technology and Engineering Management Society Japan Chapter	1997	9	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ED-15	Electron Devices Society Japan Chapter	1971-1972		東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Electron Devices Society Kansai Chapter	2000	166	関西単独						○			
C-16	Computer Society Japan Chapter	1967		東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Computer Society Kansai Chapter	2006	338	関西単独						○			
	Computer Society Fukuoka Chapter	2004		福岡単独									○
MIT-17	Microwave Theory and Techniques Society Japan Chapter	1958		東京Joint	○	○	○	○			○	○	○
	Microwave Theory and Techniques Society Nagoya Chapter	2010		名古屋単独					○				
	Microwave Theory and Techniques Society Kansai Chapter	2006	129	関西単独						○			
EMB-18	Engineering in Medicine and Biology Society Japan Chapter	1970	110	東京Joint	○	○	○	○	○	○			
	West Japan Chapter of Engineering in Medicine and Biology	2007		福岡Joint							○	○	○
COM-19	Communications Society Japan Chapter	1973		東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Communications Society Sendai Section Chapter	2012		仙台単独		○							
	Communications Society Kansai Chapter	2006	181	関西単独						○			
UFFC-20	Ultrasonics, Ferroelectrics and Frequency Control All Japan Joint Chapter	1986	35	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
EP-21	Electronics Packaging Society Japan Chapter	1994	47	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
OE-22	Oceanic Engineering Society Japan Chapter	1996	7	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
CS-23	Control Systems Society Japan Chapter	1981		東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Control Systems Society Kansai Chapter	2011	95	関西単独						○			
RA-24	Robotics and Automation Society Japan Joint Chapter	1990	161	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
E-25	Education Society Japan Chapter	1981	14	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
PC-26	Professional Communication Society Japan Chapter	2006	2	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
EMC-27	Electromagnetic Compatibility Society Japan Joint Chapter	1980	33	東京Joint	○		○	○	○	○	○	○	○
	Electromagnetic Compatibility Society Sendai Chapter	2001		仙台単独		○							
SMC-28	Systems, Man, and Cybernetics Society Japan Chapter	1974	87	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Systems, Man, and Cybernetics Society Hiroshima Chapter	2005		広島単独									○
GRS-29	Geoscience and Remote Sensing Society All Japan Joint Chapter	1982	13	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
SIT-30	Society on Social Implications of Technology Japan Chapter	1983	4	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
PE-31	Power & Energy Society Japan Joint Chapter	1964	55	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
DEI-32	Dielectrics and Electrical Insulation Society Japan Chapter	1986	12	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Magnetics Society Tokyo Chapter	1977		東京単独				○					
	Magnetics Society Sendai/Sapporo Joint Chapter	2005		仙台Joint	○	○							
	Magnetics Society Shin-etsu Chapter	2015		信越単独			○						
	Magnetics Society of Japan Nagoya Chapter	2008		名古屋単独					○				
MAG-33	Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetics Society Chapter	2015	39	関西Joint						○	○		
	Fukuok/Hiroshima Joint Sections Magnetics Society Chapter	2018		福岡Joint								○	○
	Industry Applications Society Japan Chapter	1973	58	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
IA-34	Power Electronics Society Japan Joint Chapter	1990	80	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Power Electronics Society Fukuoka Chapter	2011		福岡単独									○
PHO-36	Photonics Society Japan Chapter	1986		東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Photonics Society Kansai Chapter	2007	67	関西単独						○			
	Photonics Society Fukuoka Chapter	2011		福岡単独									○
SSC-37	Solid-State Circuits Society Japan Chapter	1998		東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Solid-State Circuits Society Kansai Chapter	2001	107	関西単独						○			
ITS-38	Intelligent Transportation Systems Society Tokyo Chapter	2014	26	東京単独				○					
	Intelligent Transportation Systems Society Nagoya Chapter	2013		名古屋単独					○				
PSE-43	Product Safety Engineering Society	2021	4	関西Joint					○	○			
CEDA-44	Council on Electronics Design Automation All Japan Joint Chapter	2014		東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○ 関西単独 ○ 関西Joint ○ 他支部Joint
他支部Jointで関西支部会員数が50名を越えるもの

「◎」幹事 Section(活動の主体、Rebate の受領及活動報告義務)、「○」Joint Chapter に参画している Section 12 名以上で、Chapter の設立が可能。なお、関西 Section が参画する Chapter のみを一覧

VI. 2022年 会計報告

収入の部		2022年計画		2022年実績	
◆IEEE - Entity間勘定		2,282,911	内容	2,354,874	内容
・ Section Rebate (IEEE本部より)	1,418,791	2021年度実績相当: \$12,998: 109.27 JPY/USD - 手数料¥1,500 (Chapter Rebate&Bonus: \$ 2,275, AG Rebate&Bonus: \$ 810 含む)		1,667,932	2022年度実績: \$13,196.05×126.51 JPY/USD - 手数料¥1,500
▲Chapter Rebate支払	▲ 248,586	2021年度実績相当: (\$200×1.1)×10+\$75×1=\$2,275		▲ 352,960	2022年度実績: (\$200×1.1)×12+\$75×2=\$2,790×126.51 6/15 全13Chapter分 (内、1Chapterは0) 支払
▲Affinity Group Rebate支払	▲ 72,588	2021年度実績相当: 24,039+32,235+16314=72,588円		▲ 74,640	2022年度収入: (\$200×1.1)×3+\$75×3=\$885×126.51 6/10 LMAG分 37,320円支払 WIE分 費消せず、37,320円を次年度繰越 ~12/17 YP分 37,320円支払 (TOWERS副賞、派遣旅費補填)
・ SB Rebate	111,485	2021年度実績相当: \$1,034: 109.27 JPY/USD - 手数料¥1,500		111,040	2022年度実績: \$872×129.06 JPY/USD - 手数料¥1,500
▲SB Rebate支払	▲ 112,986	2021年度実績相当: 全7SB分 112,986円		▲ 112,540	6/14 全7SB分 (内、1大学のSBは0) 支払
・ Section Rebate 小計	1,096,116			1,238,832	レート換算により数円の誤差あり
・ Section Assessment 2020前後期	3,762,232	2021年実績相当: 前期: \$33,616.38X¥107.99=¥3,630,232, 5/11後期: 2021年分\$600、2022年分\$600、計 \$1,200X¥110=¥132,000		4,526,115	2022年実績: 前期: \$35,680.85*¥126.85=¥4,526,115, 5/20,後期: 低額予想のため2023年前期分請求時に一括請求
▲Japan Council拠出金+手数料	▲ 3,197,897	2021年実績相当: 上記の85% (振込手数料含) 前期: 3,085,697円 (内手数料1,940円) 後期: 未着		▲ 3,847,198	2022年実績: 上記の85% (振込手数料含) 前期: 3,847,198円 (内手数料1,830円) 後期: 未着
・ Section Assessment小計	564,335	2021年実績相当: 15%還元残高 前期: 578,779円、後期: 9,978円		678,917	2021年実績: 15%還元残高 前期: 544,535円、後期:
・ LMAG Fund	0			0	
・ WIE Fund	40,000	R10 Fund, Initiative 応募		54,380	R10 Fund: WIE Symposium \$400 * 135.95 (JPY/USD)
・ YP Fund	40,000	R10 Fund, Initiative 応募		155,612	R10 Fund: \$400 * 134.48, YP Fund: \$750 * 135.76 (JPY/USD)
・ AG Fund 小計	80,000			209,992	
・ Section Incentives	226,460	2021年度実績相当 \$2,000 (113.23JPY/USD)		0	本年より制度廃止
	300,000	TENCON2020余剰金		0	<2022年未着> -> 2023年度へ持ち越し: ¥466,000
				16,224	Senior Member Elevation Nomination Incentive (6/23, \$120)
・ 備品Recovery (ハカニコ負担)				179,805	備品誤廃棄に伴うRecovery費用負担 (2023.2.15迄に入金予定)
・ 銀行利息	16,000	銀行利息 2021年実績予想相当		31,104	銀行利息 (6/1時点) 31,090円 CB口座利息 (1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12月) 14円 日本口座利息 ¥4 (2/21), ¥10 (8/22)
・ その他小計	542,460			227,133	
◆Japan CouncilからのSection支	150,000			438,033	
・ Section支援(YP)	0	2021年 Section支援申請無し		220,392	<事後申請> IEEE TOWERS in Kansai: ¥121,779, Kansai Section MDC-YP-SB交流イベント: ¥98,613
・ Section支援(EA)	0	期初申請は無し、必要に応じて都度申請		117,641	第1回EAイベント(9/3) Section支援費、総費用 ¥235,283の半額で¥117,641 (9/29入金)
・ Section支援 (総会メダル代、研究奨励)	150,000	JC共通デザインメダル支援費 2021年実績相当		100,000	余分を見て30個申請予定、総額¥300,000、内20個が支援費対象 Section支援費の¥100,000を相殺の上、¥200,000をJCに支払
小計	2,432,911			2,792,907	
◆2021年からの繰越金	5,356,313	¥口座 ¥766,688.- (2021/12/22, YP振込後) \$口座 \$44,838.75- (2021/12/20, ¥4,597,771.- TTB Avg 102.49)		5,356,313	¥口座 ¥532,082.- (2022/1/7, 理事会振込後) \$口座 \$46,838.75- (2021/12/23, ¥4,824,231.- TTB Avg 102.49)
合計	7,789,224			8,149,220	

支出の部	2022年計画		2022年実績	
◆会合・AWARD・活動費	3,900,788	内容	3,131,662	内容
・関西支部活性化費	1,208,000	2021年計画相当のイベント開催 150,000 MAW派遣旅費(10月 四国 AGから各1名) 50,000 JapanSYWL学生派遣(10月 四国 1名) 300,000 国際イベント 学生派遣(時期場所未定 2名) 100,000 博士のキャリアを語る会(YP 9~10月) 100,000 シニア会員昇格講演会(NC 9~10月) 100,000 企業会員を増やすための講演会(MDC 1月) 300,000 一般向け科学/技術教育イベント(EA 9~10月)	1,026,919	55,020 MAW/SYWL派遣旅費(10/7-8,4名) 20,730 SYWL派遣旅費(10/7-8,1名) 41,640 HSF YP設立記念式典派遣旅費(11/12) 91,190 SBLTW派遣旅費(11/18-19, 2名) 65,230 TOWERS派遣旅費(11/26, 2名) 243,558 IEEE Towers in Kansai(10/9) 153,670 博士のキャリアを語る会(10/9) 71,638 NC関西 Fellow Club(11/10,会場費等) 27,280 同懇親会(60,280-会費3,000×11名) 21,680 MDCイベント会場キャンセル料(キャンパスプラザ京都,2022/1/25オンライン開催) 11,180 第2回EAイベント(9/3) Flyer印刷-送料 224,103 第2回EAイベント(9/3,会場費等)
・総会開催費	600,000	2021年計画相当(JCには下の参加費入金分を差引いた金額を報告): 資料印刷費、会場費、懇親会費、消耗品費等 内、懇親会費は、7,000コース×24名=168,000 + 会場費46,000 = 214,000 下記懇親会費徴収額を超える114,000を支部が負担	406,999	16,370 総会資料印刷費 245,630 会場費(大阪工業大学常翔ホール) 7,257 設営スタッフ昼食(¥1,120×6名+税) 792 総会資料・賞状送料(クリックポスト¥198×4) 9,360 メダル等送料(レターパック¥520×18) 990 消耗品(2/19,カードリッジ¥660)(3/4,台紙¥330) 126,600 懇親会費(¥8,000×16名¥1,400)
▲懇親会費徴収	▲125,000	総会懇親会(懇親会参加費入金分)(5,000円×25名想定) ソーシャルディスタンスを考慮し人数限定開催(最大32名:4名×8テーブル)	▲48,000	¥4,000×12名(4名は無償)
・講演会開催費(TPC)	150,000	TPCの講演者への謝礼: 3万円×5人	60,000	第115回技術講演会(1/13) 謝金 第116回技術講演会(5/19) 謝金
・理事会費	300,000	会場代他(5万円×6回予定)	354,289	第1回: 会場¥5,750,食事¥20,736(¥2,400×8名+税) 第2回: ¥0(総会と同じ,同会場の為) 第3回: 会場¥23,397,食事¥27,604(¥2,130×12名+税) 第4回: 会場¥9,878,食事¥25,304(¥2,130×11名+税) 第5回: 会場¥31,009,食事¥23,000(¥2,130×10名+税) 第6回会場費・飲料費(大阪工業大学) ¥29,361 第6回懇親会費(25名分) ¥206,250(¥8,250×25名) 同懇親会費徴収(▲100,000 = ¥4,000×25名)
・Committee会合費	150,000	2021年計画相当: MDC/SAC/YP 連携会議 LMAG/SB/SAC 連携会議	136,356	第1回MDC/SAC/YP Joint Workshop(7/21): ¥60,000 第2回MDC/SAC/YP Joint Workshop(7/21): ¥76,356
・メダル、研究奨励賞	537,788	2021年計画と実績を考慮: 200,000 学生研究奨励賞(¥20,000 10名): 2022年総会用 37,788 YP賞メダル(3個分): 2023年総会用 300,000 JCメダル(30個分): 2023年総会用、JCより半額支援金有り	468,818	120,000 学生研究奨励賞(2/22 20,000 6名) 5,640 交通費(4名 ¥2,080 ¥380 ¥2,020 ¥1,160) 30,882 YP賞メダル(2023年総会用、2個) 12,296 関西支部メダル(記念品語産庫分、P/カンパ負担) 300,000 JCメダル作成費用(2023年総会用、30個予定)
・Student Branch支援費	390,000	2021年計画相当: 25,000 SB Chairミーティング(4~5月) 100,000 研究交流会(7月) 145,000 英語プレゼン大会(10~11月) 90,000 プレレストシグコファ(9~11月) 30,000 年末交流会(12月)	88,886	32,070 東京農工大SB10周年記念LT大会派遣(12/17) 22,840 YP賞・LMAG賞: 15,000、交通費: 5,620+2,220 33,976 年末交流会(12/26)
・LMAG支援費	160,000	2021年計画相当: 40,000 技術講演会開催・準備費用(手土産・講師謝礼) 20,000 英文添削(春頃依頼) 50,000 東方LMAG会議参加費(旅費: 春) 8,000 LMAGサロン等活動費(事務費用含) 22,000 SBプレスト大会(LMAG賞、講師謝礼) 20,000 SB英語プレゼン大会(LMAG賞)(10~11月)	148,598	<LMAG関西10周年記念イベント>(11/12) 中央電気倶楽部支払 168,598 同懇親会費徴収 ▲60,000 (= 3,000×20名) ご来賓交通費 40,000
・WIE支援費	250,000	2021年計画相当: WIE Symposium、WIE/YP joint WS(ポスターデザイン料 50,000含む)	261,571	<WIE Symposium>(10/8) 不足分はR10 Fund \$400(収入実績参照)より支出 <IEEE TOWERS>(10/9) <Kansai Section MDC-YP-SB交流イベント>(11/23)
・YP支援費	120,000	SB-YP交流イベント(新規イベント)、他支部YPイベント参画	197,226	65,428 会場費、97,560 ケータリング他、 34,238 物品・配送費 ⇒JC Section支援費¥98,613入金済
・EA支援費	100,000	新規: EA活動雑費	0	関西支部活性化費・JC Section支援費の枠で充当
・Chapter支援費	60,000	30,000×2件	30,000	SSCS: ISSCC 2022 国内報告会(3/2) 理事会承認済
◆事務経費	0		88,629	
・外部監査費・カバリー	0	外部監査不要、支部備品誤廃棄リカバリー(P/カンパ負担)	67,509	25,013 R10 Plaque・送金F-ジ(P/カンパ負担) 13,041 Kansai Section Banner(P/カンパ負担) 20,570 花リボン大中計44(P/カンパ負担) 8,885 名札入計70、封筒計50、他(P/カンパ負担)
・事務用品費	0	ファイル等	330	330(2/17:角2封筒等)
・旅費	0	各種旅費支援	0	<昨年> EAイベント運営スタッフ ⇒ <本年> 活性化費へ
・通信費	0	郵送料、宅急便等	20,790	機材送料等: 1,160(1/19理事会) 4,990(2/18-22総会) 1,160(5/26理事会) 8,790(9/21理事会、10/8,9YP&WIE) 4,690(11/12LMAG,12/19理事会)
◆雑費	30,000		▲513,189	
・取引手数料、他	30,000	2021年計画相当: 為替手数料(CB口座の為替損益調整は円安傾向で益化の見通し) 振込手数料(理事会会場費振込、CB口座より送金、AG等への支援費振込も)	▲513,189	▲¥535,996 為替損益(1/1 \$残高\$46838.75、 ¥4,824,231.-, TTB Avg 103.00 を 1/4付TTB 114.44 で 換算 ⇒ ¥5,360,227) 770*2 口座残高証明書(Financial Report添付) ×2回 1,500 海外送金手数料(3/10 CB to MUFJ, \$10K) 19,767 振込手数料(総会関連、理事会関連、技術講演会謝金、Chapter支援金、Rebate配分、EA-WIE-YP/P/カンパ、MAW/SYWL,立命SB,派遣旅費,他)
小計	3,930,788		2,707,102	
◆次年度への繰越金	3,734,688	2023年への繰越金	5,442,118	¥口座 ¥986,526-(2022年会計締め) \$口座 ¥4,455,592- \$38,642.04- TTB Avg 115.30 (1/1, ¥4,824,231.- TTB Avg 103.00)
合計	7,665,476		8,149,220	

VII. 2023年 予算

収入の部		2022年実績	2023年計画	
◆IEEE Entity間勘定		2,354,874	2,616,327	内容(2022年実績ベース)
・ Section Rebate (IEEE本部より)	1,667,932	1,667,932	2022年度実績 : \$13,196.05×126.51 JPY/USD - 手数料¥1,500	
▲ Chapter Rebate支払	▲ 352,960	▲ 352,960	2022年度実績 : (\$200×1.1)×12+\$75×2=\$2,790×126.51 6/15 全13Chapter分 (内、1Chapterは0) 支払	
▲ Affinity Group Rebate支払	▲ 74,640	▲ 74,640	2022年度収入 : (\$200×1.1)×3+\$75×3=\$885×126.51 6/10 LMAG分 37,320円支払 --/-- WIE分 37,320円プール中 11/30 YP分 SBLTW派遣補助4760円,TOWERS副賞・派遣補助	
・ SB Rebate	111,040	111,040	2022年度実績 : \$872×129.06 JPY/USD - 手数料¥1,500	
▲ SB Rebate支払	▲ 112,540	▲ 112,540	6/14 全7SB分 (内、1大学のSBは0) 支払	
・ Section Rebate 小計	1,238,832	1,238,832	レート換算により数円の誤差あり	
・ Section Assessment 2020前後期	4,526,115	4,526,115	2022年実績 : 前期:\$35,680.85*¥126.85=¥4,526,115, 5/20, 後期:未着	
▲ Japan Council 拠出金+手数料	▲ 3,847,198	▲ 3,847,198	2022年実績 : 上記の85% (振込手数料含) 前期 : 3,847,198円 (内手数料1,830円) 後期:未着	
・ Section Assessment小計	678,917	678,917	2021年実績 : 15%還元残高 前期 : 544,535円、後期 :	
・ LMAG Fund	0	0		
・ WIE Fund	54,380	54,000	R10 Fund: WIE Symposium \$400 * 135.00 (JPY/USD) (予定)	
・ YP Fund	155,612	155,250	R10 Fund: \$400, YP Fund: \$750 * 135.00 (JPY/USD) (予定)	
・ AG Fund 小計	209,992	209,250		
・ Section Incentives	0	0	2021年まで年間約\$2,000入金実績。2022年から制度廃止で入金0に。	
・ TENCON2020余剰金	0	466,000	<2022年未着> -> 2023年度へ持ち越し: ¥466,000	
	16,224	0	Senior Member Elevation Nomination Incentive (6/23, \$120)	
	179,805	0		
・ 銀行利息	31,104	23,328	銀行利息 (6/1時点) 23,314円 CB口座利息 (1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11月)	
・ その他小計	227,133	489,328		
◆ Japan CouncilからのSection支援 (Fund)	438,033	480,000		
・ Section支援(YP)	220,392	230,000	事後申請 (IEEE TOWERS in Kansai : ¥130,000、Kansai Section MDC-YP-SB交流イベント : ¥100,000)	
・ Section支援(EA)	117,641	150,000	第1回EAイベント(9/3) Section支援費、総費用¥235,283の半額で ¥117,641 (9/29入金)	
・ Section支援 (総会メダル代、研究奨励)	100,000	100,000	2023年は20個申請予定、総額¥200,000、Section支援費の¥100,000を相殺の上、¥100,000をJCに支払	
小計	2,792,907	3,096,327		
◆前年度からの繰越金	5,356,313	5,442,118		
合計	8,149,220	8,538,445		

支出の部	2022年計画		2023年計画	
	金額	内容	金額	内容
◆会合・AWARD・活動費	3,900,788		5,895,000	
・関西支部活性化費	1,208,000	2021年計画相当のイベント開催 150,000 MAW派遣旅費(10月 四国 AGから各1名) 50,000 JapanSYWL学生派遣(10月 四国 1名) 300,000 国際イベント 学生派遣(時期場所未定 2名) 100,000 博士のキャリアを語る会(YP 9~10月) 100,000 シニア会員昇格講演会(NC 9~10月) 100,000 企業会員を増やすための講演会(MDC 1月) 300,000 一般向け科学/技術教育イベント(EA 9~10月)	1,620,000	2022年実績+α相当のイベント開催 150,000 MAW派遣旅費(10月 信越 各AGから1~2名) 60,000 JapanSYWL学生派遣(10月 信越 1名) 300,000 国際・国内イベント 学生・若手派遣(時期場所人数未定) 260,000 IEEE TOWERS(JC支援費、YP Fund含む) 150,000 博士のキャリアを語る会(YP 9~10月 R10 Fund含む) 300,000 IEEE関西 Fellow Club(NC 100,000*年3回、3,8,11月) 100,000 企業会員を増やすための講演会(MDC) 300,000 一般向け科学/技術教育イベント(EA 9~10月 JC支援費含む)
・総会開催費	600,000	2021年計画相当(ICIには下の参加費入金を差引いた金額を報告)： 資料印刷費、会場費、懇親会費、消耗品費等 内、懇親会費は、7,000コース×25名=175,000 + 会場費50,000 = 225,000 下記懇親会費徴収額を超える100,000を支部が負担	600,000	2021年計画相当(ICIには下の参加費入金を差引いた金額を報告)： 資料印刷費、会場費、懇親会費、消耗品費等 内、懇親会費は、7,000コース×25名=175,000 + 会場費50,000 = 225,000 下記懇親会費徴収額を超える100,000を支部が負担
▲懇親会費徴収	▲125,000	総会懇親会(懇親会参加費入金分)(5,000円×25名想定) ソーシャルディスタンスを考慮し人数限定開催(最大32名：4名×8テーブル)	▲125,000	総会懇親会(懇親会参加費入金分)(5,000円×25名想定) ソーシャルディスタンスを考慮し人数限定開催(最大32名：4名×8テーブル)
・25周年記念行事開催費			2,000,000	会場費150,000、資料印刷費、講演謝礼、記念品、懇親会費
JapanCouncil支援費			▲650,000	
・講演会開催費(TPC)	150,000	TPCの講演者への謝礼：3万円×5人	150,000	TPCの講演者への謝礼：3万円×5人 *TPC(Technical Program Committee)
・理事会費	300,000	会場代他 (5万円×6回予定)	400,000	会場代他 (6.5万円×6回予定)
・Committee会合費	150,000	2021年計画相当： MDC/SAC/YP 連携会議 LMAG/SB/SAC 連携会議	150,000	2022年計画相当： MDC/SAC/YP 連携会議 LMAG/SB/SAC 連携会議
・メダル、研究奨励費	537,788	2021年計画と実績を考慮： 200,000 学生研究奨励費(¥20,000 10名)：2022年総会用 37,788 YP賞メダル(3個分)：2023年総会用 300,000 JCメダル(30個分)：2023年総会用、JCより半額支援金有り	470,000	2022年計画と実績を考慮： 200,000 学生研究奨励費(¥20,000 10名)：2023年総会用 賞状：30000 40,000 YP賞メダル(3個分)：2024年総会用 200,000 JCメダル(20個分)：2024年総会用、JCより半額支援金含む
・Student Branch支援費	390,000	2021年計画相当： 25,000 SB Chairミーティング(4~5月) 100,000 研究交流会(7月) 145,000 英語プレゼン大会(1月、10~11月)：昨年度分を1月開催 90,000 アレイトミツカコファ(9~11月) 30,000 年末交流会(12月)	390,000	2022年計画相当： 25,000 SB Chairミーティング(4~5月) 100,000 研究交流会(7月) 145,000 英語プレゼン大会(1月、10~11月)：昨年度分を1月開催 90,000 アレイトミツカコファ(9~11月) 30,000 年末交流会(12月)
・LMAG支援費	160,000	2021年計画相当： 40,000 技術講演会開催・準備費用(手土産・講師謝礼) 20,000 英文添削(書庫依頼) 50,000 東アジアLMAG会議参加費(旅費：費) 8,000 LMAGサロン等活動費(事務費用含) 22,000 SBプレスト大会(LMAG賞、講師謝礼) 20,000 SB英語プレゼン大会(LMAG賞)(10~11月)	160,000	2022年計画相当： 40,000 技術講演会開催・準備費用(手土産・講師謝礼) 20,000 英文添削(書庫依頼) 50,000 東アジアLMAG会議参加費(旅費：費) 8,000 LMAGサロン等活動費(事務費用含) 22,000 SBプレスト大会(LMAG賞、講師謝礼) 20,000 SB英語プレゼン大会(LMAG賞)(10~11月)
・WIE支援費	250,000	2021年計画相当： WIE Symposium、WIE/YP joint WS (ポスターデザイン料 50,000含む)	350,000	2022年実績および10周年記念を考慮：R10 Fund含む WIE Symposium、WIE/YP joint WS (ポスターデザイン料 50,000含む)
・YP支援費	120,000	SB-YP交流イベント(新規イベント)、他支部YPイベント参加	220,000	SB-YP交流イベント(社会人と学生の交流会)、JC支援費含む
・EA支援費	100,000	新規：EA活動雑費	100,000	新規：EA活動拡大支援費
・Chapter支援費	60,000	30,000×2件	60,000	30,000×2件
◆事務経費	0		950,000	
・外部監査費	0	外部監査不要	0	外部監査不要
・事務用品費	0	ファイル等	0	ファイル等
・旅費	0	各種旅費支援	1,200,000	R10Meeting3/3~3/6ホーチミン：80,000 (Air往復200,000、Hotel25,000×3、Food and beverage20,000×4、Others：10,000×4) x2人他
R10支援費			▲250,000	
・通信費	0	郵送費、宅急便等	0	郵送費、宅急便等
◆雑費	30,000		30,000	
・取引手数料、他	30,000	2021年計画相当： 為替手数料(CB口座の為替損益調整は円安傾向で益化の見通し) 振込手数料(理事会会場費振込、CB口座より送金、AG等への支援費振込み他)	30,000	2022年計画相当： 為替手数料(CB口座の為替損益調整は円安傾向で益化の見通し) 振込手数料(理事会会場費振込、CB口座より送金、AG等への支援費振込み他)
小計	3,930,788		6,875,000	
◆次年度への繰越金	3,734,688	2023年への繰越金	1,663,445	2024年への繰越金
合計	7,665,476		8,538,445	

VIII. 受賞者

IEEE 関西支部 Young Professionals 賞受賞者 (2名)

木村 駿	大阪大学
高橋 拓海	大阪大学

IEEE 関西支部学生研究奨励賞受賞者 (9名)

赤星 圭梧	京都大学
井阪 友哉	奈良先端科学技術大学院大学
影山 雄太	大阪大学
小林 聖人	神戸大学
丸尾 明廣	大阪大学
村川 悠磨	京都大学
下里 京平	京都大学
竹田 健太	京都大学
トシレック カンジャンナシット	奈良先端科学技術大学院大学

IEEE 関西支部メダル受賞者 (新 Senior member) (13名)

ALTAF UL AMIN MD.	奈良先端科学技術大学院大学
林 勲	関西大学
林 和志	神戸製鋼所
井本 桂右	同志社大学
黒部 彰夫	パナソニック
西中 浩之	京都工芸繊維大学
岡田 健治	ゼタテクノロジー株式会社
Hamada Rizk	大阪大学
杉町 勝	国立循環器病研究センター
竹中 功	村田製作所
Thi Hong Tran	大阪公立大学
梅沢 仁	産業技術総合研究所
山口 明啓	兵庫県立大学

IEEE 関西支部 新 Fellow

(2名)

大久保 雅章

大阪公立大学大学院

原田 研介

大阪大学大学院

(敬称略)

以降、参考情報

I. IEEE KANSAI SECTION BYLAWS

In all instances, the Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE) Bylaws, Constitution, Policy and Procedures manual, and the Member and Geographic Activities (MGA) Operations Manual will prevail when there is a conflict between these documents and Section Bylaws.

ARTICLE I --- Name and Territory

Section 1

This organization shall be known as the Kansai Section of the IEEE.

Section 2

The territory of the Kansai Section, as approved by the MGA Board, includes the following: Osaka, Kyoto, Hyogo, Nara, Shiga, and Wakayama prefectures, JAPAN.

(The districts with the postal codes starting with 52 through 67 inclusive)

ARTICLE II --- Officers

Section 1

The elected officers of the Kansai Section shall be the 4 Executive officers: Chair, Vice Chair, Secretary and Treasurer. The offices of the Secretary and Treasurer may be combined.

Section 2

The terms of office of the elected officers shall be for 2 years.

Section 3

Terms of office will begin on January 1 but, in any case, the outgoing officers will continue until their successors are duly elected and take office. The consecutive period of service shall not exceed two years.

Section 4

Any vacancy occurring during the year shall be filled by a majority vote of the Section Executive Committee.

ARTICLE III --- Standing Committee

Section 1

The Standing Committees of the Section will be as follows:

- Membership Development Committee
- Nominations Committee
- Student Activities Committee
- Technical Program Committee
- Awards Committee
- Chapter Operations Committee

Section 2

The Chair of the Standing Committees will be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Section Chair.

Section3

Each Committee Chair will appoint his/her Committee members, with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Committee Chairs'.

Section4

Duties of the Standing Committees will be as generally described in the IEEE Section Operations Guide.

ARTICLE IV --- Management

Section 1

The management of the Section shall be by the Section Executive Committee which shall consist of the elected officers, the Past Section Chair and the following:

Standing Committee Chairs,
representatives of Affinity Groups,
such other members appointed by the Section Executive Committee,
and such other members appointed by the Section Chairman.

The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed.

Section 2

A majority of the Section Executive Committee shall constitute a quorum, provided that delegates elected by the Section membership are at least one greater in number than delegates appointed to the Committee.

Section 3

A majority of the Section Executive Committee present shall be necessary in the conduct of its business.

Section 4

Meetings of the Section Executive Committee ordinarily will be held at least twice a year and will be called by the Section Chair or by a request of three members of the Section Executive Committee.

Section 5

The fiscal year of the Section shall be the calendar year.

ARTICLE V --- Nomination and Election of Officers

Section 1

A nominating Committee consisting of three members, not then officers of the Section,

shall be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee.

Section 2

The nominations of the Nominating Committee will be announced to the Section membership and, following this, a minimum of 28 days allowed for additional nominations by petition. To be valid, the petition must be signed by 2% or more voting membership.

Section 3

If only one nomination is made for each office, the election will be made at the Annual Meeting. If additional nominations are made, election will be by ballot, mailed to the membership with the vote counted by a Tellers Committee appointed by the Section Chair.

Section 4

The timetable for this procedure is as follows:

Appointment of Nominating Committee:	by August 31
Announcement of Nominations:	by September 30
Close nominations by petition:	by October 31
Hold election:	by November 30

Section 5

A plurality of the votes cast shall be necessary for election.

ARTICLE VI --- Business Meeting

Section 1

In order to transact business at a Section meeting, at least 3 members must be present to constitute a quorum.

ARTICLE VII --- Finances

Section 1

All expenditures of Section funds must be approved by Section Treasurer or Chair.

Section 2

Without prior authorization of the IEEE Executive Committee, Section funds can be used only for normal operations of the Section.

Section 3

The treasurer shall be authorized to draw funds as approved by the Section Executive Committee.

ARTICLE VIII --- Amendments

Section 1

Proposals for amendments to these Bylaws may originate in the Section Executive Committee or by a petition signed by 20% or more voting members.

Section 2

Amendments to or revocation of these Bylaws shall be in accordance with the IEEE Bylaws, Policies, and the MGA Operations Manual.

IEEE Japan Council メダル授与規定

関西支部は、関西支部活動への積極的な参画を動機付けること、及び、Member Grade の昇格を動機付けることを目的とし、また、関西支部活動のアピールを行なうことにより関西支部の活性化に繋げることを目的として、IEEE Japan Council メダルを下記の者に授与する。

1. 関西支部に所属する新 Fellow で、Senior Member 昇格時に IEEE 関西支部メダルもしくは IEEE Japan Council メダルを贈呈されなかった者
2. 総会の前年の 1 年間の間に関西支部で新 Senior Member に昇格した者
3. 支部長が推薦し、理事会において承認された者

また、下記の希望者に対しては、支部長が推薦し、理事会において承認された上で、有償にて授与することができる。但し、その金額は関西支部が IEEE Japan Council メダルを Japan Council から購入した最新の購入単価とする。

4. 関西支部に所属する Fellow 又は Senior Member の希望者で、Fellow 昇格時又は Senior Member 昇格時において IEEE 関西支部メダルもしくは IEEE Japan Council メダルを贈呈されなかった者
5. 関西支部内部の運営に貢献のあった者
6. 上記以外の特別な理由で理事会の承認を得た者

本規定は、施行/改定承認日から適用する。

また、本規定の施行と同時に、IEEE 関西支部メダル授与規定(2017 年 1 月 1 日改定)を撤廃する。

2022 年 2 月 22 日施行

年 月 日改定

年 月 日改定

IEEE 賞状用紙支給に関する規定について

IEEE Japan Council の Award 登録を行った Chapter、Affinity Group、Student Branch の表彰に対し、IEEE の賞状に台紙を支給することができる。

1. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① IEEE Japan Council の Award 登録手続きに従い、登録を行う。
- ② IEEE Japan Council の Award 登録用紙(Excel)、賞状の必要枚数、賞状送付先住所氏名を添え、賞状授与申請のメールを関西支部事務局(sec-kansai@ieee-jp.org)に送付する。なお、申請は会合の2週間以上前とする。
メールタイトルは、「【IEEE 賞状授与申請】[組織名]必要に応じて備考」としていただきたい。
- ① 内容を確認し、問題がなければ Award Committee より、所定の住所へ賞状を発送する。
- ② 授与組織は会合開催後、IEEE 本部の Meeting Reporting System への登録を行った後に、関西支部事務局にメール送付する。

2. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016年10月20日施行

2017年1月1日改定

IEEE 関西支部 Chapter 予算補てんに関する規定について

Chapter が活動を行う際に、関西支部からの Rebate、Society からの支援では活動費がまかなえない場合に、関西支部が Chapter の不足額の補てんについては、原則として以下のとおりとする。

1. 予算について

年初に Chapter 支援総額を予算化し、その予算の中で運用する。

なお、予算総額については、2月に開催される総会で承認をする。予算額は、その年の支部の活動、為替レートなどにより変動する可能性がある。

1年間の Chapter あたりの補てん額の上限は 3 万円とする。なお、予算総額に応じ、上限額は変わることがある。

2. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① Chapter より、会合の名称、開催日、開催場所、開催趣旨、想定参加人数などを添え、現在の Chapter 資金、会合にかかる想定費用、支援内容を記載した支援申請のメールを関西支部 Chapter Operation Committee (COC) に送付する。なお、申請は会合の 3 週間以上前とする。
- ② COC は、規定の適合性をチェックし、適合している場合には、Treasurer および Section Chair の承認を得る。非適合の場合で、Chapter からの強い要請がある場合には、理事会にメールベースなどで承認の可否判断の依頼をする
- ③ Chapter に承認の可否を連絡する。
- ④ Chapter は会合開催後、IEEE 本部の Meeting Reporting System への登録を行った後に、各種領収書、請求書の PDF を関西支部事務局にメール送付するとともに、請求書の原本を関西支部事務局に送付する。
- ⑤ 関西支部は Meeting Reporting System の記載内容、領収書の内容、請求書の内容を確認後、Chapter に所定の金額を振り込む。

3. 補てん可能な内容について

① 講演者への謝礼

原則、IEEE 会員の講演者については、謝礼を遠慮していただいているが、謝礼をしなければ、有用な事業が実施できない場合に、支援を行う。

- i) Chapter が「主催」もしくは「共催」する事業に限定する
- ii) 謝礼額は、原則として、Chapter ごとの差が出ないように、1 名 1 万円とする
- iii) 支援を受ける事業については、Chapter のホームページ等で Chapter 会員に周知する。
- iv) 想定参加人数は、10 名以上であること。

② 役員会合に対する支援

Chapter の役員会合に対しては、Japan Council からは支援が受けられないが、役員
の力が Chapter 活動に大きく影響するため、役員会合に対しても一定の支援を行うこと
にする。ただし、飲食に対する支援は、1 回/年とする。

- i) 会合の参加者は 3 名以上
- ii) IEEE 本部の Meeting Report が作成されていること
- iii) 支援額は、飲食代の 1/2 以下とする
 - ・1 名あたりの支援額の上限を 2,000 円(税抜き)とする
 - ・会合の終了時間が 19 時以降の場合に支援を行う

4. 要件を満たさない場合で支出を行う場合

- ・事前に理事会の承認を得ること

5. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016 年 9 月 23 日施行

2017 年 1 月 1 日改定

IEEE 関西支部 SB 支援に関する規定について

関西支部が Student Branch(SB)活動に対する支援については、原則として以下のとおりとする。

1. 予算について

- ① 1事業の支援額の上限は3万円とする。なお、旅費は除く。
- ② 支部の予算状況に応じて運用し、支援を保証するものではない。

2. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① SBより、会合の名称、開催日、開催場所、開催趣旨、想定参加人数などを添え、支援内容を記載した支援申請のメールを関西支部 Student Activities Committee (SAC) に送付する。なお、申請は会合の3週間以上前とする。
- ② SACは、規定の適合性をチェックし、適合している場合には、Treasurer および Section Chair の承認を得る。非適合の場合で、SBからの強い要請がある場合には、理事会にメールベースなどで承認の可否判断の依頼をする
- ③ SBに承認の可否を連絡する。
- ④ SBは会合開催後、活動報告レポートの関西支部への提出及びSBのホームページへの活動報告の登録を行った後に、領収書のPDFを関西支部事務局にメール送付するとともに、領収書の原本を関西支部事務局に送付する。
なお、活動報告のレポートには、
 - ・開催日時、場所
 - ・参加人数および可能であれば、IEEE会員の参加人数
 - ・イベントの規模がわかる写真
 - ・副賞などの支援を行った場合には、受賞者の写真を掲載することが望ましい。
SBのホームページには活動報告のレポートを掲載するなどに対応してもよい。
- ⑤ 関西支部は Meeting Reporting System の記載内容、領収書の内容、請求書の内容を確認後、SB口座に所定の金額を振り込む。

3. 支援内容について

SBの活動に対し、

- ① IEEE会合に付随して開催されること。
- ② IEEE本部の Meeting Report が作成されていること
- ③ SBのホームページに会合の報告が公開されること

の条件が満たされ、かつ、各項目記載の条件を満たす場合に、以下のような支援を行う

- ④ 会合に付随する飲食の支援について
以下の要件を満たす場合に、費用の1/2もしくは、2,000円(税抜)/人の低い額を支援する。
 - i) IEEE会合に参加している人数が5名以上
- ⑤ 会合に参加する際の旅費の支援について
以下の要件を満たす場合に、旅費交通費を支援する。
 - i) IEEE会合に参加している人数が5名以上

ii) 運営側、もしくは発表者として参加していること。単なる参加者には支援を行わない。

支援対象者の役割一覧を提出すること

⑥ 発表会などの副賞について

以下の要件を満たす場合に、副賞を支援する。

- i) IEEE 会合に参加している人数が 10 名以上
- ii) 副賞を受け取れる人数は参加者の 10%以下
- iii) 副賞は現金以外(図書券など)とする
- iv) 副賞の上限は 10,000 円/人とする

4. 要件を満たさない場合で支出を行う場合

- ・ 事前に理事会の承認を得ること

5. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016 年 12 月 20 日施行

IEEE 関西支部理事会役員に関する規定について

IEEE 関西支部理事会及び支部長が指名する理事役員として、以下のメンバーを関西支部の理事役員とする。

1. Past 役員

Past Vice Chair, Past Secretary, Past Treasurer, Past Committee Chair についても、Chair もしくは理事会で指名した場合には、理事会役員とする。

2. Vice Chair, Secretary 及び Treasurer 立候補予定者

現行 Vice Chair, Secretary 及び Treasurer の残り任期が 1 年以下の期間に、Chair もしくは理事会で指名した場合に、次期 Vice Chair, Secretary 及び Treasurer 立候補予定者を理事会役員とする。なお、立候補予定者は、次期役員として立候補することを前提とする。また、候補予定者が役員となる時には、Past Vice Chair, Past Secretary, Past Treasurer は原則として役員を退任する。

3. 適用日

本規定は、2018 年 1 月 31 日から適用する。

2018 年 1 月 30 日理事会承認

参考

By Laws より

such other members appointed by the Section Executive Committee, and such other members appointed by the Section Chairman.

MGA Operation Manual/9.4 Sections/D. Section Management

1. The Section affairs shall be managed by an Executive Committee consisting of the elected officers. The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed. Chapter and Affinity Group Chairs, as elected by their membership, are considered "elected" official, as is the Past Section Chair.

※その他の Past Vice Chair, Past Committee Chair 等については、記載がない

2. All Chapters and Affinity Groups in the Section shall have voting representation either individually or collectively on the Section Executive Committee, and the Subsection Chairs shall be ex-officio members with voting power.

3. Sections may have Student representation on the Executive Committee through appointment of one Student member and/or the Chair of the Section Student Activities Committee. It is recommended that every Section have a Section Student Representative (SSR), who is a voting member of the Section Committee, in Sections where there is at least one Student Branch.

4. A quorum is required for administrative meetings. A majority of the voting members the committee shall constitute a quorum. These meetings shall be conducted in accordance with Robert's Rules of Order (latest version) as the standard parliamentary authority.

5. Reasonable efforts should be made to notify all members of Section meetings and activities. Methods of communication could be, but are not limited to, email distributions (in keeping with IEEE email policies), postings on Section Web sites, social media venues, or hard copy distributions.

関西支部では、Chair, Vice Chair, Secretary, Treasurer, MDC Chair, NC Chair, SAC Chair, TPC Chair, AC Chair, COC Chair の 10 名 + LMAG Chair, WIE Chair, YP Chair, Past Chair の合計 14 名が選挙で選ばれた役員/理事。従って、役員/理事総数は 27 名以下。なお、Past Chair も退任する場合、Secretary と Treasurer が兼任の場合には、役員/理事会総数は 25 名以下。

基本的には、Elected 扱いの Past Chair が残っていれば、他のすべての役職の Past もしくは立候補予定者が入っても、必ず、選挙で選ばれた役員は過半数を超えるが、Past Chair の代わりに Chair 立候補予定者となってしまうと、どれかの役職の Past もしくは立候補予定者が理事会に入らない状態にならないければ、選挙で選ばれた役員数が過半数を超える状態にならないため、注意が必要。

(参考) 関西支部各チャプターにおける国際会議 Sponsorship の承認手続きについては、以下の JC COC の手続きに従うこととする。

国際会議 Sponsorship の承認手続きについて

2018年12月18日

2019年02月14日 改訂

2019年10月31日 改訂

2021年6月18日 改訂

2022年3月10日 改訂

Japan Council Chapter Operations Committee

Tokyo Section Chapter Operations Committee

1. Chapter が関わる Sponsorship の承認手順

(0) IEEE 側の担当者 (Chapter 等) は、共催/協賛の承認手続きに先だち次を済ませておく。

- ・ 営利団体への共催、協賛は、原則、行わない、ことの確認

IEEE Policy 10.1.2 項参照

<https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/corporate/ieee-policies.pdf>

- ・ 事前に相手先の組織を確認し、実態不明の組織との「共催」とならないことを確認
- ・ Organizational Unit (OU)間の協議で、Financial Co-sponsorship か Technical Co-sponsorship かを決定
- ・ 関係する OU 間で責任分担を明確にして、MOU を作成
- ・ <注意> MOU 締結申請をした際には、MOU 申請者は支部の 3 役(Chair, VC, Secretary)

に連絡すること

【参考】 IEEE における Sponsorship の定義について

Types of Sponsors 詳細は以下参照

<https://ieeemce.org/planning-basics/getting-started/obtaining-sponsorship/>

国内での協賛（後援）は IEEE では以下に該当する。

Non-Sponsor Support（WEB などに情報を掲載する場合は細かい種別は掲載せず、「Non-Sponsor Support」という用語を利用頂く。）

Non-Sponsor Support は以下を含む：

-
- ・Partners
 - ・Contributors
 - ・Patrons
 - ・Supporters
 - ・Publicity
 - ・Keynotes
 - ・Exhibitors
-

国際会議の場合、Conference application には Non-Sponsor Support の記載欄が無い場合、協賛（後援）の場合は、団体名は記載しないよう注意する。

- (1) 国際会議主催者が IEEE Conference Application から web 登録後、IEEE MCE より、該当する OU (Section) Officer に承認依頼が届くので、Section Secretary は、Section 事務局に送付し採番(#1)を依頼し、事務局は Section COC (Chair)に検討依頼を行う。
#1 事務局通し番号、会議名、MOU 記載の会議番号、TCS/FCS の識別、関連 Chapter、関連支部、IEEE MCE からの送付日、審議期間、審議状況等を記録する。

- (2) Section COC(Chair)は該当する Chapter に対して、確認、審議を行う。
複数の Section の Chapter からなる Joint Chapter が該当する場合、または、その依頼の場合には、Main Section だけでなく Joint のすべての Section の Chair, Secretary (#2), (当該 Section に存在する場合)COC とも期限を定めて審議を行う。
協議時間は、1 週間を目安としながら、案件ごとに Section の COC (Chair)が設定する。
#2 Main Section 以外の Section の Chair, Secretary は、審議結果を依頼元の Section COC (Chair)に電子メールにて報告する。この際に、本部 web での結果登録を行っては「ならない」。

審議においては、Section COC(Chair)は以下を行う。

- ① TCS の場合は、TCS-Fee の負担組織を確認する。TCS-Fee は、Conference の主催者、Chapter/Section、その両者の分担の 3 つのケースがある。あらかじめ設定した期限までに Section から非承認回答がなければ、承認として処理する。

* IEEE の Technical Co-Sponsorship Fee (TCS-Fee) が 2019 年 1 月 1 日より導入され、IEEE Geo Unit と TCS を締結している国際会議は 1,450 ドルに加え、IEEE Xplore 掲載費として 22 ドル/Paper の費用負担を行う。なお、Xplore に掲載しない場合でも、定額 1,450 ドルを負担する。

【参考】 MGA Operations Manual: 10.4Conference involvement, C-2 TCS Fee

https://mga.ieee.org/images/files/MGA_Operations_Manual_2021.3.30_FINAL.pdf

- ② FCS の場合は、支部負担がないことを担保するため、次のことを確認する。
- ・ 「関係 Section は一切の金銭負担は負わないこと」を Chapter に伝えるとともに、
 - ・ 「会議が最悪ケースでも赤字予算にならないこと」を確認し、Section の確認に移ることとする。
 - ・ FCS については、関係全 Section からの承認回答を以て承認とする。

(3) Section Secretary は、COC の答申結果に基づき、次の処理を行う。

- ・ TCS の場合は、Section Secretary が承認(web)して、後日、Section 理事会で報告する。
- ・ FCS の場合は、Section の理事会でメール審議を行い、承認後に Section Secretary が承認(web)を行う。

(4) 費用負担が発生する場合の注意点

- ・ Chapter/Section が費用負担を行う場合（負担率(%)が0でない場合）、負担分の収支の確認のため予算案を同時に Chapter から提出いただく。
- ・ 国際会議主催者が IEEE Conference Application から web 登録を行う前に、事前に Chapter/Section に費用負担の承認を求める場合がある。その場合も同様に、上記の手続きにより対応する。承認を得たのち、正式に web 登録してもらう。

【参考】 IEEE Policy 10.1.4 項

<https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/corporate/ieee-policies.pdf>

2. Chapter が関係しない Section や Japan Council での Sponsorship の承認手順

国内学会等からの Section (Japan Council) 宛の協賛依頼については、Section(Japan Council)理事会のメール審議などで協賛の可否を審議し、承認後に依頼元へ事務局から回答する。Japan Council では協賛対応は行うが、Technical Co-Sponsorship については、会議において Technical な部分でのサポートが求められるため、原則対応せず、関連分野の Chapter での対応を推奨する。

*日本国内での協賛、後援について、ホームページや各種媒体への名義掲載に際し、英語表記の場合、該当する IEEE での用語利用に注意頂く。(【参考】 Sponsorship の定義についてを参照)

協賛(後援、協力)については、Co-Sponsorship, Technical Co-Sponsorship には該当せず、Non-Sponsor Support のカテゴリでの対応をお願いする。

用語の利用について、日本国内での協賛イベント（研究会、講演会など）も IEEE Policy の国際会議のガイドラインに準拠した対応とする。

<https://ieeemce.org/planning-basics/getting-started/obtaining-sponsorship/>
<https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/corporate/ieee-policies.pdf#page=76>

3. MOU を必要としない Chapter での Sponsorship 処理について

以下の場合、MOU を必要としない。

この場合 Chapter 内で可否を審議判断し、所属 Section 等には結果の報告を行う。

- (1) 会議の財政規模（収入または支出の多い方）が 25,000USD を超過する会議において、当該 Chapter の担当内容が、人的支援、広報支援、IEEE の名称使用のいずれかまたはすべての範囲内である場合
（運営責任、財政責任(#3)、財政支援(#4)、物品貸与を伴わない場合）

- (2) 会議の財政規模が 25,000USD 以下の会議において、当該 Chapter の担当内容が、物品貸与、人的支援、広報支援、IEEE の名称使用のいずれかまたはすべての範囲内である場合
（運営責任、財政責任(#3)、財政支援(#4)を伴わない場合）

#3 運営収支が支出過剰になった場合に財政負担を行うような責任

#4 運営資金の一部または全部を支出するまたは物品を供出する責任

※ 注意点

- ・いずれの場合にも、営利団体への共催、協賛等は、原則、行わない。
- ・役務や責任に対する認識相違を防止するため、依頼元からは IEEE 側の役務や責任を明記した依頼状を受領することとし、協賛等の可否判断の審議に供することとする。
- ・上記の諸条件で規定できない何等かの責任を負う場合には、責任の内容によっては MOU を締結することが好ましい場合がある。判断に迷う場合には、支部、或いは JC-COC に問い合わせる
- ・Logo の使用に当たっては IEEE Policy 6.3.2 項、10.1.17 項、12.1 項に準拠のこと

<https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/corporate/ieee-policies.pdf>

【参考】 MOU の要否判断例

-----JC COC 提案の更新版-----

【参考】 MOU の要否判断例

運営責任その他の提供役務の有無に応じて下表のようにケース 1～4 を定義する。

「共催」、「協賛」等の用語に基づいた判断ではなく、実質的な提供役務の範囲で判断する。

ケース\提供役務	運営 責任	財政 責任	財政 支援	物品 貸与	人的 支援	広報 支援	IEEE 名称使用
ケース 1 (多くの場合「主催」 「共催」相当)	有	有	有	有	有	有	有
ケース 2 (多くの場合「協賛」相当)				有	有	有	有
ケース 3 (多くの場合「協力」相当)					有	有	有
ケース 4 (多くの場合「後援」相当)						有	有

ケース 3、4 では MOU 不要と判断する。

特に、財政規模が 25,000USD 以下の会議ではケース 2 も MOU 不要と判断する。

(A) 財政規模が 25,000USD を超過する会議

	運営 責任	財政 責任	財政 支援	物品 貸与	人的 支援	広報 支援	IEEE 名称使用
ケース 1 (多くの場合「主催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 2 (多くの場合「共催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 3 (多くの場合「協賛」相当)				○	○	○	○
ケース 4 (多くの場合「協力」相当)					○	○	○
ケース 5 (多くの場合「後援」相当)						○	○

ケース 4 およびケース 5 では MOU 不要と判断

※ 「共催」、「協賛」等用語に基づいた判断ではなく、実質的な提供役務の範囲で判断

(B) 財政規模が 25,000USD 以下の会議

	運営 責任	財政 責任	財政 支援	物品 貸与	人的 支援	広報 支援	IEEE 名称使用
ケース 1 (多くの場合「主催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 2 (多くの場合「共催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 3 (多くの場合「協賛」相当)				○	○	○	○
ケース 4 (多くの場合「協力」相当)					○	○	○
ケース 5 (多くの場合「後援」相当)						○	○

ケース 3、4 およびケース 5 では MOU 不要と判断

※ 「共催」、「協賛」等用語に基づいた判断ではなく、実質的な提供役務の範囲で判断
以上

2023 年 IEEE 関西支部連絡先
〒554-0024 大阪市此花区島屋 1-1-3
住友電気工業株式会社 研究開発本部 研究企画業務部内
IEEE 関西支部事務局
e-mail: sec-kansai@ieee-jp.org
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/english/>